

# HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure

HP Operations Manager for Windows®、HP-UX、Linux、Solaris 向け

ソフトウェア バージョン: 1.60

---

## インストール ガイド

ドキュメント リリース日: 2010 年 5 月

ソフトウェア リリース日: 2010 年 5 月



## ご注意

### 保証について

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2009-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Microsoft® および Windows® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Adobe®, Acrobat®, PostScript® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java™ および Java ベースのすべての商標とロゴは、Sun の商標または登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このガイドの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

**<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>**

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

または、HP Passport のログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

## サポート

次の HP ソフトウェアサポート オンライン Web サイトを参照してください。

**[www.hp.com/go/hpsoftwaresupport](http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport)**

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに、素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェアサポート Web サイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア カスタマとの意見交換
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP パスポートユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP パスポート ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

アクセス レベルに関する詳細は、以下の Web サイト を参照してください。

**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)**

# 目次

<b>1 インストールの概要</b> .....	9
このマニュアルで使用されている命名規則 .....	9
Infrastructure SPIs DVD の内容と説明 .....	10
Systems Infrastructure SPI バージョン 1.60 .....	10
Virtualization Infrastructure SPI バージョン 1.60 .....	10
Cluster Infrastructure SPI バージョン 1.60 .....	10
Infrastructure SPIs 用のレポート パッケージ .....	11
Infrastructure SPIs 用のグラフ パッケージ .....	11
インフラストラクチャ管理用の HP OMi コンテンツ パック .....	11
製品ドキュメント .....	12
ディスク領域の要件 .....	13
サポートしているプラットフォーム .....	13
サポートしている管理サーバーのプラットフォーム .....	13
サポートしている管理ノードのプラットフォーム .....	14
サポートしているクラスタ .....	14
サポートしている HP Performance Agent のバージョン .....	14
サポートしている HP Performance Manager のバージョン .....	14
サポートしている HP Reporter のバージョン .....	15
ソフトウェアのライセンス .....	15
言語オプション .....	16
<b>2 Infrastructure SPIs のインストール</b> .....	17
インストール .....	17
Infrastructure SPIs の HPOM for Windows 管理サーバーへのインストール .....	17
有人インストール .....	17
無人インストール .....	22
Infrastructure SPIs の HPOM for UNIX 管理サーバーへのインストール .....	23
有人インストール .....	23
無人インストール .....	27
Infrastructure SPIs のクラスタ環境へのインストール .....	28
HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール .....	29
HP Performance Manager が別のシステムにインストールされている場合のグラフ パッケージのインストール .....	29
インストール結果 .....	29
HPOM for Windows 管理サーバーでのインストール結果 .....	29
HPOM for UNIX 管理サーバーでのインストール結果 .....	30
Operating System SPI の自動配布の削除 .....	30
Virtualized Infrastructure SPI バージョン 1.00 からのアップグレード .....	30

Infrastructure SPIs バージョン 1.00 からのアップグレード	30
HPOM for Windows での Infrastructure SPIs のアップグレード	31
HPOM for Windows でのアップグレード結果	31
アップグレード後のポリシーの配布	33
HPOM on Linux および HPOM on HP-UX での Infrastructure SPIs のアップグレード	33
HPOM on Linux および HPOM on HP-UX でのアップグレード結果	34
アップグレード後のポリシーの配布	36
Operating System SPIs から Infrastructure SPIs への移行	36
<b>3 検証</b>	39
HPOM for Windows での Infrastructure SPIs のコンポーネント	39
サービス	39
サービス タイプ モデル	41
ノード	43
ツール	43
ポリシー管理	44
レポート	45
グラフ	45
HPOM for UNIX での Infrastructure SPIs のコンポーネント	46
サービス	46
ツール	47
ポリシー管理	48
レポート	49
グラフ	50
<b>4 はじめに</b>	53
HPOM for Windows - はじめに	53
管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布	53
仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行	54
Cluster Infrastructure での検出ポリシーの実行	55
Quick Start ポリシーの HPOM for Windows への配布	55
HPOM for UNIX - はじめに	57
管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布	57
仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行	57
Cluster Infrastructure での検出ポリシーの実行	58
Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX への配布	58
レポートとグラフの表示	59
HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合	60
レポート用のデータ収集	60
<b>5 Infrastructure SPIs の削除</b>	63
ディスク領域の要件	63
Windows サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール	63
Windows サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール	64
Windows サーバーからの個別の Infrastructure SPIs の有人アンインストール	65

Windows サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール .....	66
UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール .....	66
UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール .....	67
コマンド行インタフェースを使用した UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール .....	67
UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール .....	68
クラスタ サーバー環境からの Infrastructure SPIs の削除 .....	68
アンインストール結果 .....	68
<b>6 付録: Infrastructure SPIs バージョン 1.60 での変更点</b> .....	<b>69</b>
HPOM for Solaris および HP OMi のサポート .....	69
管理ノード上での AIX、HP-UX、および Solaris のサポート .....	69
機能強化された検出 .....	69
強化されたトレース機能 .....	69
機能強化されたポリシーのグループ化 .....	70
強化されたノード グループのレイアウト .....	70
新規ポリシーと変更されたポリシー .....	72
メッセージ グループの変更 .....	74





# 1 インストールの概要

このガイドでは、HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure のインストール方法、現バージョンへのアップグレード方法、および関連情報について説明します。

Smart Plug-ins for Infrastructure (Infrastructure SPIs) は、HP Operations Manager (HPOM) と完全に統合されたソフトウェアスイートを形成します。HPOM の管理範囲を拡大し、システム、高可用性クラスター (HA クラスター)、仮想インフラストラクチャなど、企業全体に分散しているベース インフラストラクチャの監視を可能にします。ドメイン間の IT インフラストラクチャ イベントを関連するアプリケーションに関連付けることができ、それらのイベントを階層サービス マップにマップします。

## このマニュアルで使用されている命名規則

このドキュメントでは、以下の命名規則が使用されています。

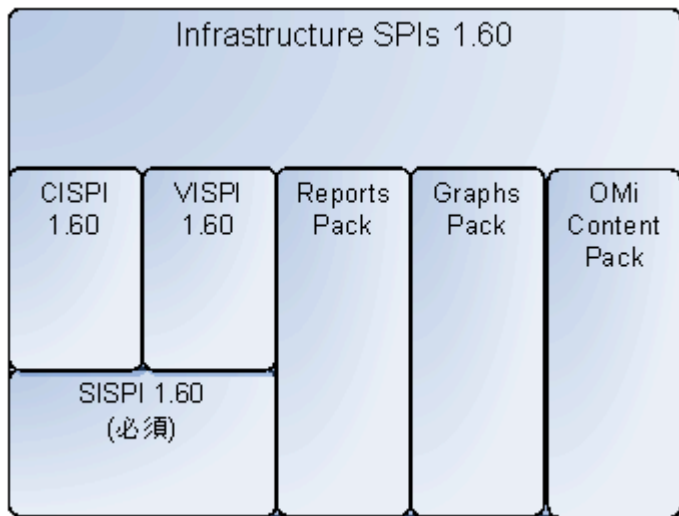
表 1 このドキュメントで使用されている命名規則

命名規則	説明
HPOM for UNIX	HPOM for UNIX は、HPOM on HP-UX、HPOM on Linux、および HPOM on Solaris を総称するためにドキュメントで使用されます。 特定のオペレーティング システムを明確に区別する必要がある場合は、以下のように表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• HPOM on HP-UX</li><li>• HPOM on Linux</li><li>• HPOM on Solaris</li></ul>
Infrastructure SPIs	HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure。このソフトウェアスイートには、以下の 3 つの Smart Plug-in が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure</li><li>• HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure</li><li>• HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure</li></ul>
SI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure
VI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure
CI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure

# Infrastructure SPIs DVD の内容と説明

Infrastructure SPIs メディアには、ソフトウェア、ドキュメント、および該当するレポート パック、グラフ パック、OMi コンテンツ パックが含まれています。次の図に、Infrastructure SPIs メディアのさまざまなコンポーネントを示します。

図 1 Infrastructure SPIs メディアのコンポーネント



## Systems Infrastructure SPI バージョン 1.60

Smart Plug-in for Systems Infrastructure (SI SPI) バージョン 1.60 は、個々のシステム インフラストラクチャのパフォーマンスを監視します。容量、可用性、使用率などの監視要素に基づいてシステム パフォーマンスを分析できます。このインストールは、Infrastructure SPIs メディアから、Virtualization Infrastructure SPI、Cluster Infrastructure SPI、レポート パック、グラフ パックなどの他のコンポーネントをインストールする場合、必須となります。

## Virtualization Infrastructure SPI バージョン 1.60

Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure (VI SPI) バージョン 1.60 は、VMware ESX/ESXi と Microsoft Windows 2008 Hyper-V の各サーバー、およびそれらのサーバーでホストされている仮想マシンを監視します。容量、使用率、可用性、リソース消費量などの監視要素に基づいてホストおよびゲスト マシンのパフォーマンスを分析できます。Virtualization Infrastructure SPI は、HP Performance Agent が提供するパフォーマンスと設定情報のメトリックを使用します。

## Cluster Infrastructure SPI バージョン 1.60

Smart Plug-in for Cluster Infrastructure (CI SPI) バージョン 1.60 は、HA クラスタ (またはフェイルオーバー クラスタ) インフラストラクチャの可用性を監視します。クラスタ要素の可用性と状態、およびそれらの要素上で実行されているプロセスとサービスを分析できます。

## Infrastructure SPIs 用のレポート パッケージ

管理ノードから収集されたメトリック データに基づいてレポートを生成するには、HP Reporter を HPOM と統合する必要があります。Infrastructure SPIs 固有のレポートを表示するには、レポート パッケージを Infrastructure SPIs メディアから管理サーバーにインストールする必要があります。レポートを使用すると、インフラストラクチャのパフォーマンスの傾向を分析できます。これにより、IT システム内の潜在的なボトルネックを特定し、将来的なアップグレードの正確な予測を行い、正確な情報を収集してサービス レベルを測定することができます。

レポートを表示するには、HP Reporter を HPOM と連動して使用する必要があります。

## Infrastructure SPIs 用のグラフ パッケージ

管理ノードから収集されたデータからグラフを生成および表示するには、HP Performance Manager を HPOM と統合する必要があります。Infrastructure SPIs 固有のグラフを表示するには、グラフ パッケージを Infrastructure SPIs メディアから管理サーバーにインストールする必要があります。グラフでは、インフラストラクチャのパフォーマンスとリソースの使用率を分析できます。

グラフを表示するには、HP Performance Manager を HPOM と連動して使用する必要があります。

## インフラストラクチャ管理用の HP OMi コンテンツ パック

インフラストラクチャ管理用の HP OMi コンテンツ パックには、監視対象のインフラストラクチャ オブジェクトまたは設定項目を記述するために、HP OMi 8.10 が使用する情報が含まれています。たとえば、オブジェクトとしては、監視する CPU、オペレーティング システム、ファイル システム、クラスタ ソフトウェア、または仮想マシンを指定できます。

コンテンツ パックには、インフラストラクチャ関連イベントを監視できるイベント タイプ インジケータ、健全性インジケータ、主要なパフォーマンス インジケータ、マッピング ルール、KPI 計算およびビジネス ルール、ツール定義、ビュー マッピング、グラフ割り当てが含まれています。HP OMi コンテンツ パックの詳細は、『*Using HP Operations Manager i guide(HP Operations Manager i 使用方法ガイド)*』を参照してください。

## 製品ドキュメント

Infrastructure SPIs に関する情報は、以下に示す製品ドキュメントから入手できます。

表 2 Infrastructure SPIs に関して提供されるドキュメント

ドキュメント	場所	目的
インストール ガイド	<CD\DVD-ROM>\Documents	Infrastructure SPIs のインストール、アップグレード、設定、およびさまざまなタスクの実行に関するステップバイステップの手順について説明します。
コンセプト ガイド	<CD\DVD-ROM>\Documents	Infrastructure SPIs のアーキテクチャと使用されている主要なコンセプトに関する情報を提供します。
オンライン ヘルプ	HPOM コンソールの <b>[ヘルプ]</b> ドロップダウン メニューから 利用可能	ユーザーに次のタスクの実行方法を手順を追って説明します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SPI ポリシーの使用</li> <li>• SPI ツールの使用</li> <li>• レポートの使用</li> <li>• グラフの使用</li> </ul> オンライン ヘルプは、個々の Infrastructure SPI に固有のものです。
ユーザー ガイド	<CD\DVD-ROM>\Documents	ユーザーに次のタスクの実行方法を手順を追って説明します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SPI ポリシーの使用</li> <li>• SPI ツールの使用</li> <li>• レポートの使用</li> <li>• グラフの使用</li> </ul> ユーザー ガイドは、個々の Infrastructure SPI に固有のものです。
インストールおよびリファレンス ガイド (OMi コンテンツ パック用)	<CD\DVD-ROM>\Documents	Infrastructure SPIs 用の OMi コンテンツ パックのインストールに関するステップバイステップの手順、およびリファレンス情報について説明します。
リリース ノート	<CD\DVD-ROM>	SPI のリリースに関する情報を提供します。

コンセプト ガイド、ユーザー ガイド、インストールおよびリファレンス ガイド、リリース ノートは、Infrastructure SPIs DVD で入手できます。DVD から直接アクセスするか、ドキュメントをリファレンス用にローカルシステムにコピーできます。

## ディスク領域の要件

Infrastructure SPIs では、各種オペレーティング システムで以下のディスク領域の容量が必要になります。

表3 インストールに必要なディスク領域

オペレーティング システム	一時フォルダ*	合計ディスク領域
Windows	%tmp% - 15 MB	90 MB
Linux	/tmp - 35 MB	90 MB
HP-UX	/tmp - 17 MB	240 MB
Solaris	/tmp - 35 MB	80 MB

\* 一時フォルダ/ドライブ用のディスク領域は、インストール中にのみ必要になります。これらは概算値です。

## サポートしているプラットフォーム

Infrastructure SPIs をインストールする前に、ハードウェアとソフトウェアの対応バージョンがインストールされていることを確認します。Infrastructure SPIs でサポートしている管理サーバーのオペレーティング システムのバージョン、管理ノードのオペレーティング システムのバージョン、および関連する HP 製品のバージョンに関する情報の最新の更新については、以下の個々の SPI リリース ノートを参照してください。

- *HP Operations Manager Smart Plug-in for Systems Infrastructure* リリース ノート
- *HP Operations Manager Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure* リリース ノート
- *HP Operations Manager Smart Plug-in for Cluster Infrastructure* リリース ノート

## サポートしている管理サーバーのプラットフォーム

表4 サポートしている管理サーバーのプラットフォーム

オペレーティング システム	サポートしている HP Operations Manager (HPOM) のバージョン
Microsoft Windows	HPOM for Windows 8.16 + パッチ* HPOM for Windows 8.10 + パッチ*
HP-UX	HPOM on HP-UX 9.0 + パッチ*
Linux	HPOM on Linux 9.0
Solaris	HPOM on Solaris 9.0

\* HPOM で必要なパッチの詳細は、リリース ノートを参照してください。

## サポートしている管理ノードのプラットフォーム

表 5 サポートしている管理ノードのプラットフォーム

オペレーティング システム	サポートしている HP Operations Agent のバージョン
Microsoft Windows	8.60*
Red Hat Enterprise Linux	8.60*
SuSE Linux Enterprise Server	8.60*
HP-UX	8.60*
Sun Solaris	8.60*
IBM AIX	8.60*

\* HPOM で必要なパッチの詳細は、リリース ノートを参照してください。

## サポートしているクラスタ

表 6 サポートしているクラスタ

クラスタ	オペレーティング システム
ServiceGuard、Veritas Cluster Server	HP-UX
Red HAT Cluster、Veritas Cluster Server、ServiceGuard	Red Hat Enterprise Linux
Sun Cluster	Sun Solaris
Veritas Cluster Server	Sun Solaris
Veritas Cluster Server、ServiceGuard	SLES
MS Cluster	Windows
Veritas Cluster Server	Windows

## サポートしている HP Performance Agent のバージョン

- SI SPI と CI SPI の場合、HP Performance Agent のインストールはオプションです。Performance Agent がいない場合、ポリシーは HP EPC メトリック (デフォルトで使用可能) から値を取得します。Performance Agent が存在している場合、ポリシーは Performance Agent メトリックから値を取得します。管理ノードに既存のバージョンの HP Performance Agent が既にインストールされている場合、バージョン 5.00 にアップグレードすることをお勧めします。
- VI SPI の場合、SPI ポリシーで使用されるメトリック収集のために、HP Performance Agent バージョン 5.00 が必須となります。

HP Performance Agent のインストールの詳細は、『*HP Performance Agent Installation and Configuration Guide (HP Performance Agent インストールおよび構成ガイド)*』を参照してください。

## サポートしている HP Performance Manager のバージョン

- グラフ パッケージを HP-UX、Windows、または Solaris の各オペレーティング システムにインストールするには、HP Performance Manager バージョン 8.20 (ソフトウェア パッチ付き) 以降がインストールされていることを確認します。必要なパッチの詳細は、リリース ノートを参照してください。

- グラフ パッケージを Linux にインストールするには、サーバーに HP Performance Manager バージョン 8.21 以降がインストールされていることを確認します。

## サポートしている HP Reporter のバージョン

Infrastructure SPIs 用の Reporter パッケージをインストールするには、HP Reporter バージョン 3.80 がインストールされていることを確認します。

# ソフトウェアのライセンス

Infrastructure SPIs は、以下の 3 つの Smart Plug-in を含むソフトウェアスイートです。

- Systems Infrastructure SPI (SI SPI)
- Virtualization Infrastructure SPI (VI SPI)
- Cluster Infrastructure SPI (CI SPI)

Systems Infrastructure SPI または Cluster Infrastructure SPI には、別個のライセンスは不要です。これらの SPI は、HP Software Operations Instance Advanced LTU (使用権) の購入に含まれています。各 SPI (System Infrastructure および Cluster Infrastructure) ごとに 1 つの LTU が、HP Software Operations Instance Advanced LTU を 1 つ購入するたびに含まれています。

Virtualization Infrastructure SPI のライセンス要件は、Virtualization Infrastructure SPI を使用して HPOM サーバーによって管理される仮想化された環境内の仮想インスタンスの数に従って定義されます。

- Microsoft Hyper-V の場合、ライセンスは VI SPI が配布される Hyper-V ホストの数に依存します。VI SPI によって監視される Hyper-V ホスト システムには、それぞれ別個の Virtualization Infrastructure SPI LTU (VI SPI LTU) が必要になります。
- VMware インフラストラクチャの場合、VI SPI を使用して監視される ESX と ESXi のすべてのホストに、別個の VI SPI LTU が必要です。VMware 環境では、VI SPI によって実際に監視されている合計数より少ない台数のサーバー (vSphere Management Appliance – vMA 上) に、VI SPI を配布することに注意してください。VI SPI を使用して vMA 経由でリモートで監視される VMware ホストにも、別個の VI SPI LTU が必要になります。

仮想インスタンスを監視するために VI SPI が配布されているところでは、各ゲスト仮想マシンに関する情報が HP Operations Manager コンソールの登録ノードに提示されます。この場合、監視対象の仮想インスタンス上の各ゲスト仮想マシンに HP Operations Manager サーバー内でライセンスを付与する必要があります。

ゲスト仮想マシンには、以下の 2 つのライセンス オプションがあります。

- 各ゲスト仮想マシンに HP Operations Instance Advanced LTU を取得でき、これでゲスト仮想マシン用の高解像度監視機能が強化されます。
- または、ゲスト仮想マシンに対して HP Operations Manager Target Connector LTU を取得することもできます。

ライセンスの詳細は、『*HP Operations Manager for Windows インストールガイド*』または『*HP Operations Manager for UNIX インストールガイド*』のライセンスの項を参照してください。

Virtualization Infrastructure SPI には、インストール後 60 日間当該製品を使用できる、試用ライセンスが付いています。

ライセンスの取得方法、永久ライセンス キー パスワードの適用方法、または HPOM でのライセンス レポートの表示方法の詳細は、『*HP Operations Manager for Windows インストールガイド*』または『*HP Operations Manager for UNIX インストールガイド*』を参照してください。

## 言語オプション

HPOM for Windows の場合、HP Software for Infrastructure SPIs 1.60 バージョンは、英語、日本語、簡体中国語の各言語で利用できます。ローカリゼーションでは、ユーザー インタフェース要素、Web ページ、およびログ ファイルが特定の言語に翻訳されます。HPOM for Windows では、1 つのシステムに複数のインタフェース言語をインストールできる Multiple User Interface (MUI) がサポートされています。Infrastructure SPIs をベース ロケールとして英語を使用してインストールする場合、インストーラは、HPOM for Windows のインストール時に選択された言語と同じ言語でポリシーをアップロードします。日本語または簡体中国語の各ロケールでは、インストーラはベース ロケール言語を選択します。

HPOM for UNIX の場合、HP Software for Infrastructure SPIs 1.60 バージョンは、英語で利用できます。Infrastructure SPIs を英語以外のシステム ロケールでインストールし、ユーザー インタフェース要素、Web ページ、ログ ファイル、オンライン ヘルプ、およびユーザー ドキュメントを英語で利用できます。

以下の表に、HPOM サーバーで適用できる Infrastructure SPIs の言語オプションを示します。

表 7 言語オプション

ベース オペレーティング システムのロケール	HPOM for Windows 8.16	HPOM on HP-UX 9.x	HPOM on Linux 9.x	HPOM on Solaris 9.x
英語	MUI - HPOM for Windows のインストール時に選択された言語	英語	英語	英語
簡体中国語	簡体中国語	英語	英語	英語
日本語	日本語	英語	英語	英語
他の任意の言語	英語	英語	英語	英語



## 2 Infrastructure SPIs のインストール

この章では、Infrastructure SPIs をインストールする際に必要な情報をご覧ください。

### インストール

Infrastructure SPIs は、HPOM 管理サーバーにインストールする必要があります。Infrastructure SPIs をインストールするには、Windows システムの管理者、または HP-UX、Linux、Solaris の各システムのルート ユーザーとしてログオンする必要があります。

Infrastructure SPIs を HPOM for Windows および HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、Solaris を含む) の各管理サーバーにインストールするには、以下の項で説明する手順に従います。

- Infrastructure SPIs の HPOM for Windows 管理サーバーへのインストール
- Infrastructure SPIs の HPOM for UNIX 管理サーバーへのインストール

### Infrastructure SPIs の HPOM for Windows 管理サーバーへのインストール

インストールを開始する前に、このガイドの残りの部分をご覧ください。決定すべき事項を立案し、必要な情報を収集してください。以下のいずれかの手順を使用すると、Infrastructure SPIs を Windows 管理サーバーにインストールできます。

- 有人インストール
- 無人インストール

#### 有人インストール

SPI インストールのプロセス全体を、インストール ウィザードに従って実行できます。有人インストールを実行するには、以下の手順を実行します。

- 1 開いているすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 CDROM/DVD からインストールする場合、Infrastructure SPIs CD/DVD メディアを管理サーバー/コンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに挿入し、エクスプローラ ウィンドウでメディアの内容を開きます。

または

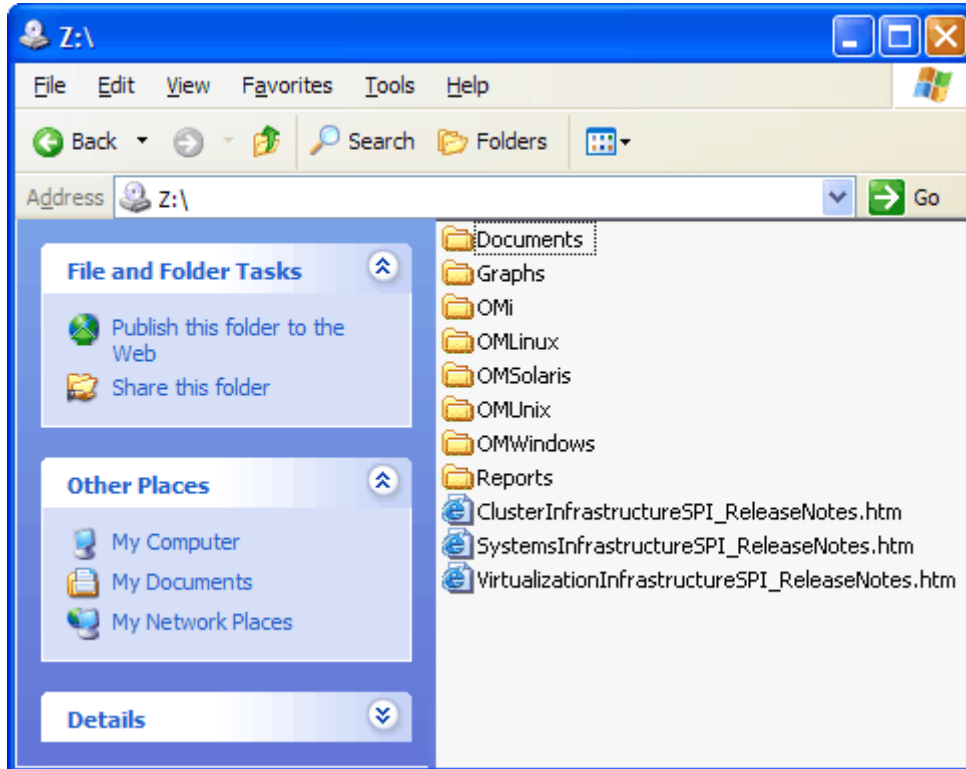
以下の HP Software Partner Portal (アカウントとパスワードが必要) から Infrastructure SPIs メディア イメージファイル (.iso) をダウンロードします。

[https://h10078.www1.hp.com/cda/hpdc/display/main/search\\_results.jsp?zn=bto&cp=54\\_4012\\_100\\_](https://h10078.www1.hp.com/cda/hpdc/display/main/search_results.jsp?zn=bto&cp=54_4012_100_)

イメージを物理メディアに書き込むか、コントロール パネルから Microsoft Virtual CD-ROM などのソフトウェアを使用してイメージファイルを仮想 CD としてマウントします。

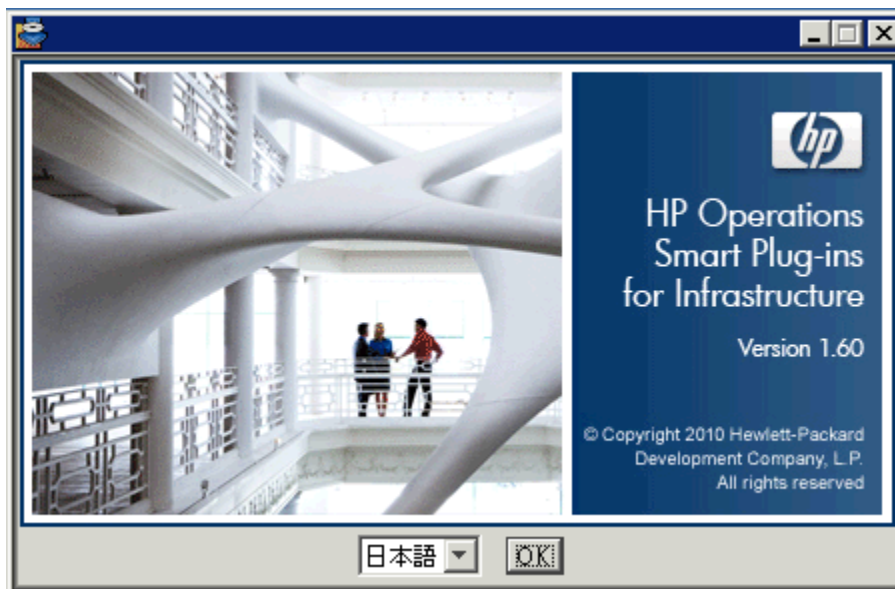
以下の図に、Infrastructure SPIs メディアの内容を示します。

図 2 Infrastructure SPIs メディアの内容



- 3 メディアが使用可能になったら、OMWindows ディレクトリに移動し、**HPInfraSPI\_setup.exe** をクリックしてインストーラを起動します。

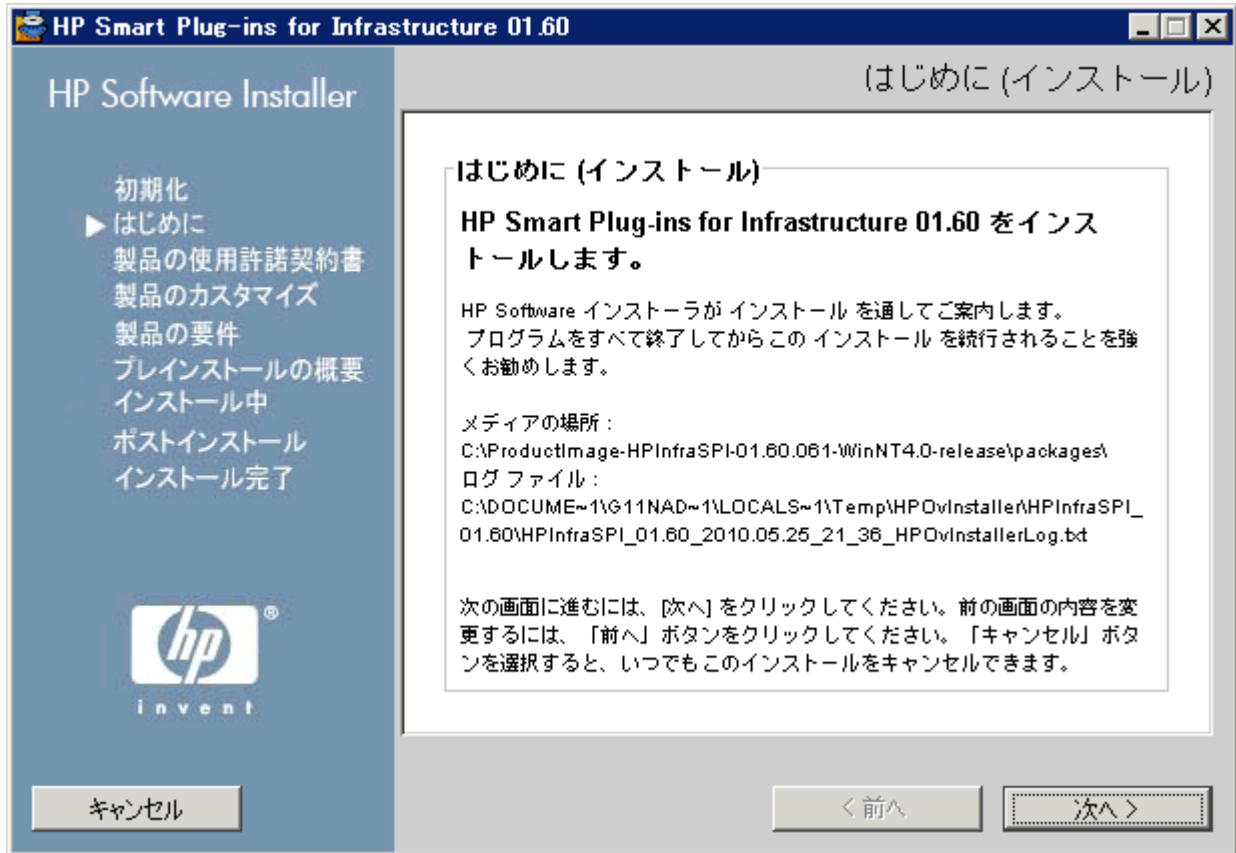
インストール ウィザードが表示されます。



- 4 言語を選択し、**[OK]** をクリックします。アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、**[Continue]** をクリックします。

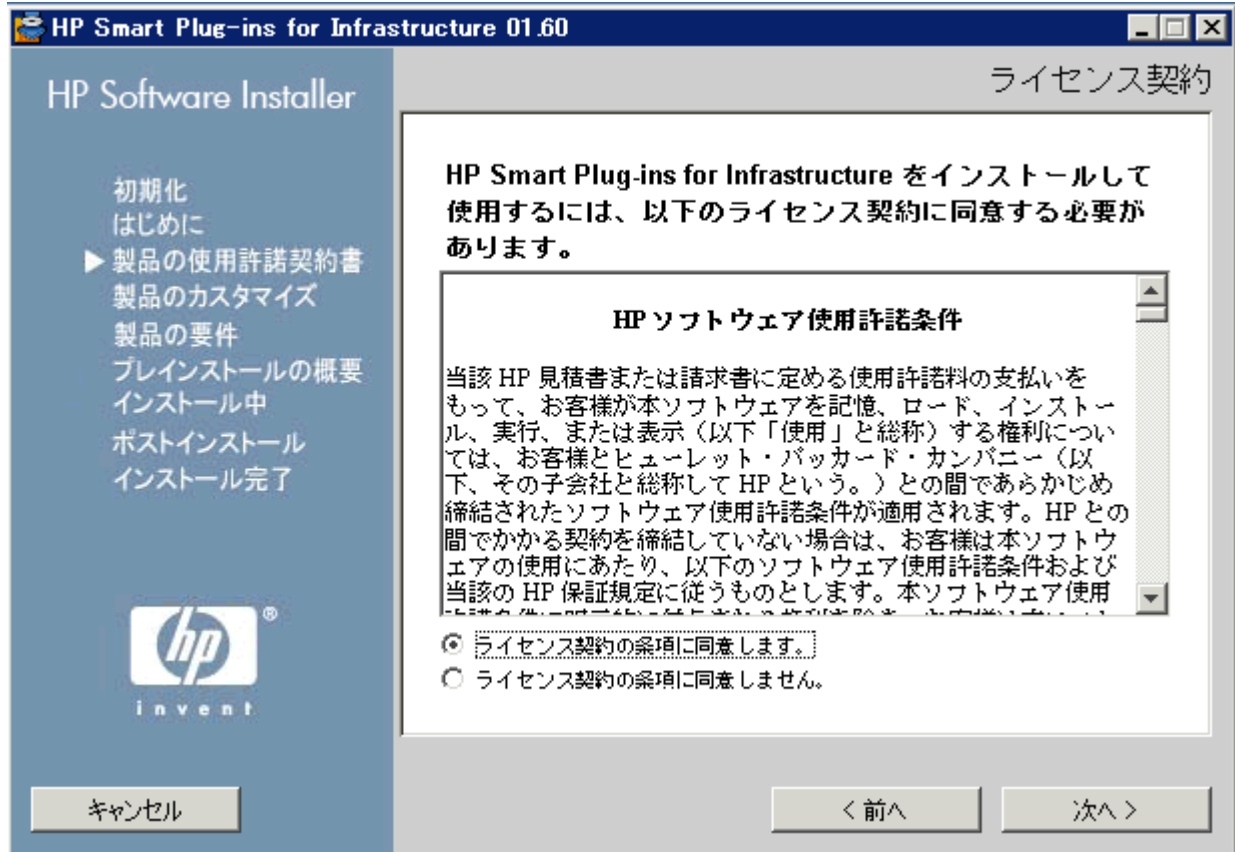
インストール ウィザードの [はじめに (インストール)] ページが開きます。

図3 インストールウィザードの [はじめに (インストール)] ページ



- 5 インストールウィザードの [はじめに (インストール)] ページで、**[次へ]** をクリックします。  
[ライセンス契約] ページが表示されます。

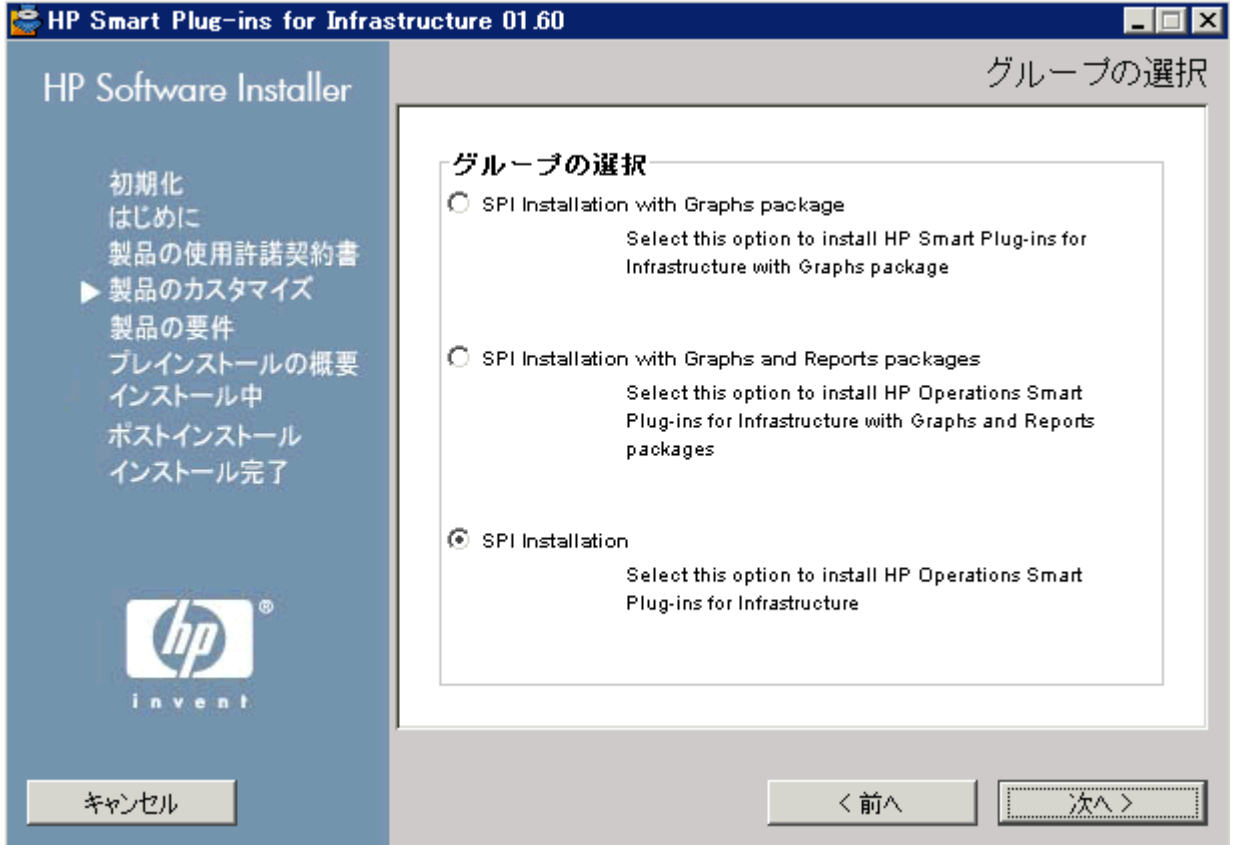
図4 インストールウィザードの[ライセンス契約]ページ



- 6 使用許諾契約書の条項を読み、[ライセンス契約の条項に同意します。] オプションを選択して、[次へ] をクリックします。

[グループの選択] ページが開き、インストールオプションのリストが表示されます。

図 5 HPOM for Windows でのインストール ウィザードの [グループの選択] ページ

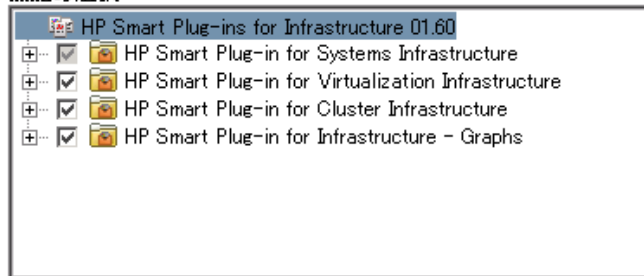


7 以下のいずれかのオプションを選択します。

— **SPI Installation with Graphs package**

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をグラフ パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフ パッケージのインストールは、HP Performance Manager が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

**機能の選択**



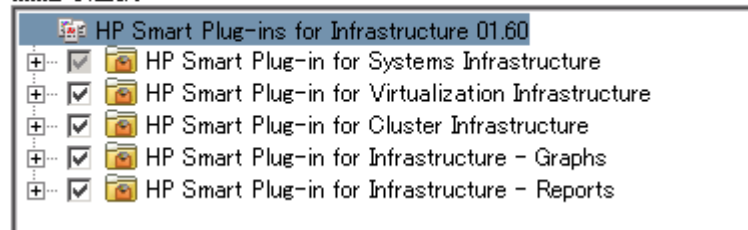
HP Smart Plug-in for Systems Infrastructure のインストールは必須なため、事前に選択されています。[機能の選択] ページで使用可能な残りのオプションから、インストールする機能を選択します。

— **SPI Installation with Graphs and Reports packages**

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をグラフおよびレポート パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフおよびレポート パッケージのインストールは、HP Performance Manager と HP Reporter が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

HP Reporter が HPOM for Windows に接続している別のシステムにインストールされている場合は、「HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール」の手順に従ってください。

### 機能の選択



HP Smart Plug-in for Systems Infrastructure のインストールは必須なため、デフォルトで選択されています。[機能の選択] ページで使用可能な残りのオプションから、インストールする機能を選択します。

#### — SPI のインストール

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をインストールするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、3 つの Infrastructure SPIs のすべてのインストールが自動的に選択されます。

- 8 [機能の選択] ページでオプションを選択したら、**[次へ]** をクリックします。  
インストーラがインストール チェックを実行し始めます。
- 9 画面の指示に従い、**[次へ]** と **[インストール]** の各ボタンを使用してインストール プロセスを進めます。  
インストールを完了すると、インストール ウィザードによって [インストールの完了] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 10 **[完了]** をクリックして、インストールを完了します。

## 無人インストール

無人インストールでは、HP Software Installer がユーザーの操作を介さずにインストールを実行します。

無人インストールを実行するには、以下の手順を実行します。

- 1 Windows コマンド プロンプトを開き、Infrastructure SPIs の HPInfraSPI\_setup.exe ファイルがあるドライブの名前を入力します。

<CD/DVD-ROM または temp> :

ドライブには、Infrastructure SPIs パッケージをダウンロードしたローカル システム、または Infrastructure SPIs ファイルを格納している CD/DVD-ROM ドライブを指定できます。

- 2 現在のディレクトリの場所を変更するには、以下のコマンドを実行します。

**cd OMWindows**

- 3 要件に応じて、コマンド プロンプトで以下のいずれかのコマンドを入力します。

— グラフ パッケージ付き SPI のインストールでは、以下の構文を入力します。

**HPInfraSPI\_setup.exe -DGROUP=WithGraphs -i silent**

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をグラフ パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフ パッケージのインストールは、HP Performance Manager が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

— グラフおよびレポート パッケージ付き SPI のインストールでは、以下のコマンドを入力します。

**HPInfraSPI\_setup.exe -DGROUP=WithGraphsAndReports -i silent**

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をグラフおよびレポート パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフおよびレポート パッケージのインストールは、HP Performance Manager と HP Reporter が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

HP Reporter が HPOM に接続している別のシステムにインストールされている場合は、「HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール」の手順に従ってください。

- SPI のインストールでは、以下のコマンドを入力します。

```
HPInfraSPI_setup.exe -i silent
```

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をインストールするには、このオプションを選択します。

インストール プロセスはバックグラウンドで行われます。

[Windows タスク マネージャ] → [プロセス] の順に開き、HPInfraSPI\_setup.exe がリストされていることをチェックできます。<インストール ディレクトリ>\install\<関連する SPI フォルダ>\log にインストールされている SPI 用に使用できるログ ファイルをチェックして、インストールが完了していることを確認することもできます。デフォルトでは、<インストール ディレクトリ>は C:\Program Files\HP\HP BTO Software です。

## Infrastructure SPIs の HPOM for UNIX 管理サーバーへのインストール

以下のいずれかの手順で、Infrastructure SPIs を HP-UX、Linux、または Solaris の各管理サーバーにインストールできます。

- 有人インストール
- 無人インストール

### 有人インストール

グラフィカル インタフェースとコマンド行インタフェースを使用すると、Infrastructure SPIs を HP-UX、Linux、または Solaris の各システムにインストールできます。

#### グラフィカル インタフェースによる Infrastructure SPIs のインストール

グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) を使用して Infrastructure SPIs をインストールする場合、GUI の表示に必要な X Window System クライアントを使用する必要があります。たとえば、Reflection X を使用できます。

有人インストールを実行するには、以下の手順を実行します。

- 1 ルート ユーザーとしてログインします。
- 2 CD/DVD-ROM からインストールする場合、Infrastructure SPIs CD/DVD メディアを CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。必要に応じて、CD/DVD-ROM をマウントします。

または

以下の HP Software Partner Portal (アカウントとパスワードが必要) から Infrastructure SPIs メディア イメージ ファイル (.iso) をダウンロードします。

**[https://h10078.www1.hp.com/cda/hpdc/display/main/search\\_results.jsp?zn=bto&cp=54\\_4012\\_100\\_\\_](https://h10078.www1.hp.com/cda/hpdc/display/main/search_results.jsp?zn=bto&cp=54_4012_100__)**

イメージを物理メディアに書き込むか、ISO イメージを temp ディレクトリにマウントします。

- 3 ターミナルウィンドウで、以下のように入力して、DISPLAY 環境変数が使用しているワークステーションに正しく設定されていることを確認します。

```
echo $DISPLAY
```

DISPLAY 環境変数が正しく設定されていない場合、正しく設定してコンソールの GUI が正しく表示されるようにします。

```
export DISPLAY=<Infrastructure SPIs のインストール元のローカルシステムの IP アドレス  
またはホスト名>:0.0
```

- 4 Infrastructure SPIs をインストールしている管理サーバーのオペレーティング システムに応じて、以下のコマンドを実行して現在のディレクトリの場所を変更します。

```
cd <OMSolaris/ OMLinux/ OMUnix>
```

- 5 必要に応じて、システム上で X Window System クライアント (X11 クライアント) を起動します。

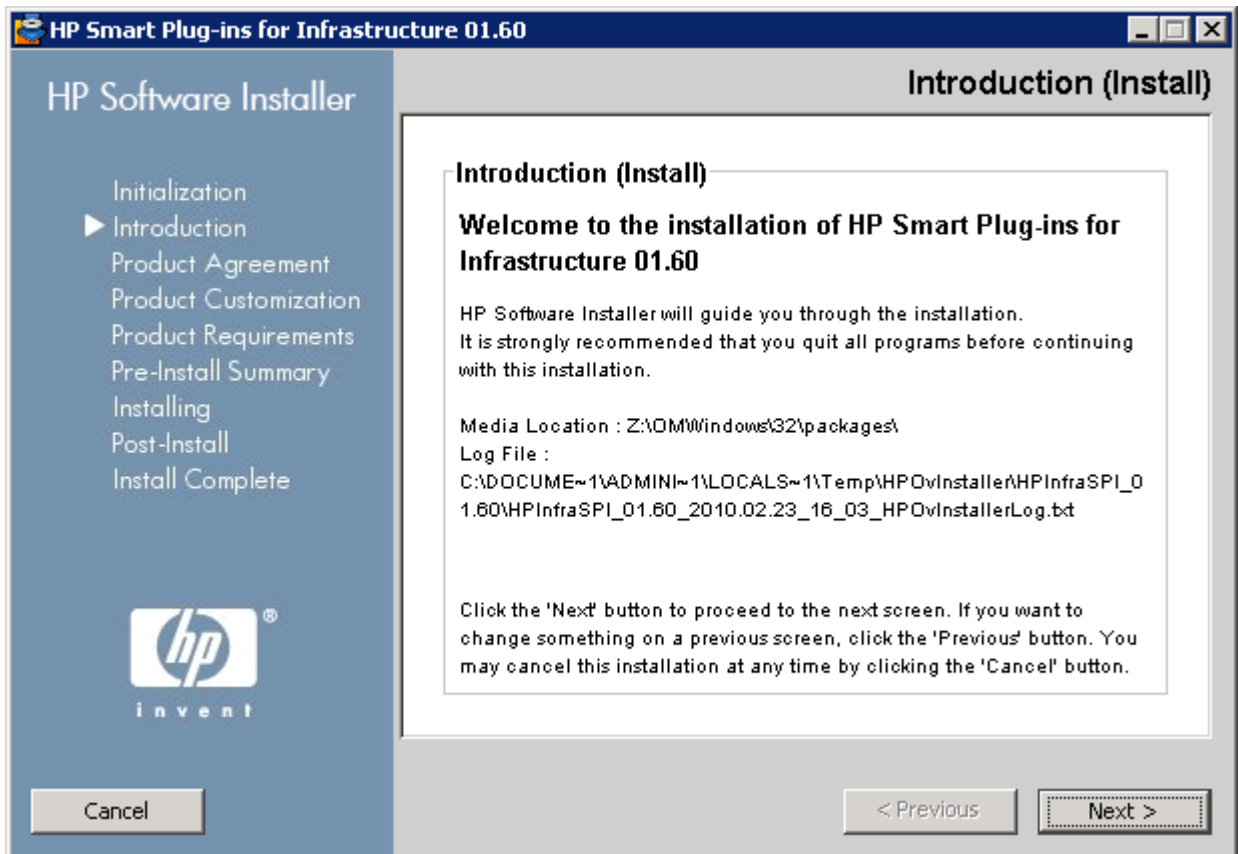
- 6 以下のコマンドを実行します。

```
./HPInfraSPI_setup.bin
```

インストール ウィザードが表示されます。

- 7 アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、**[Continue]** をクリックします。

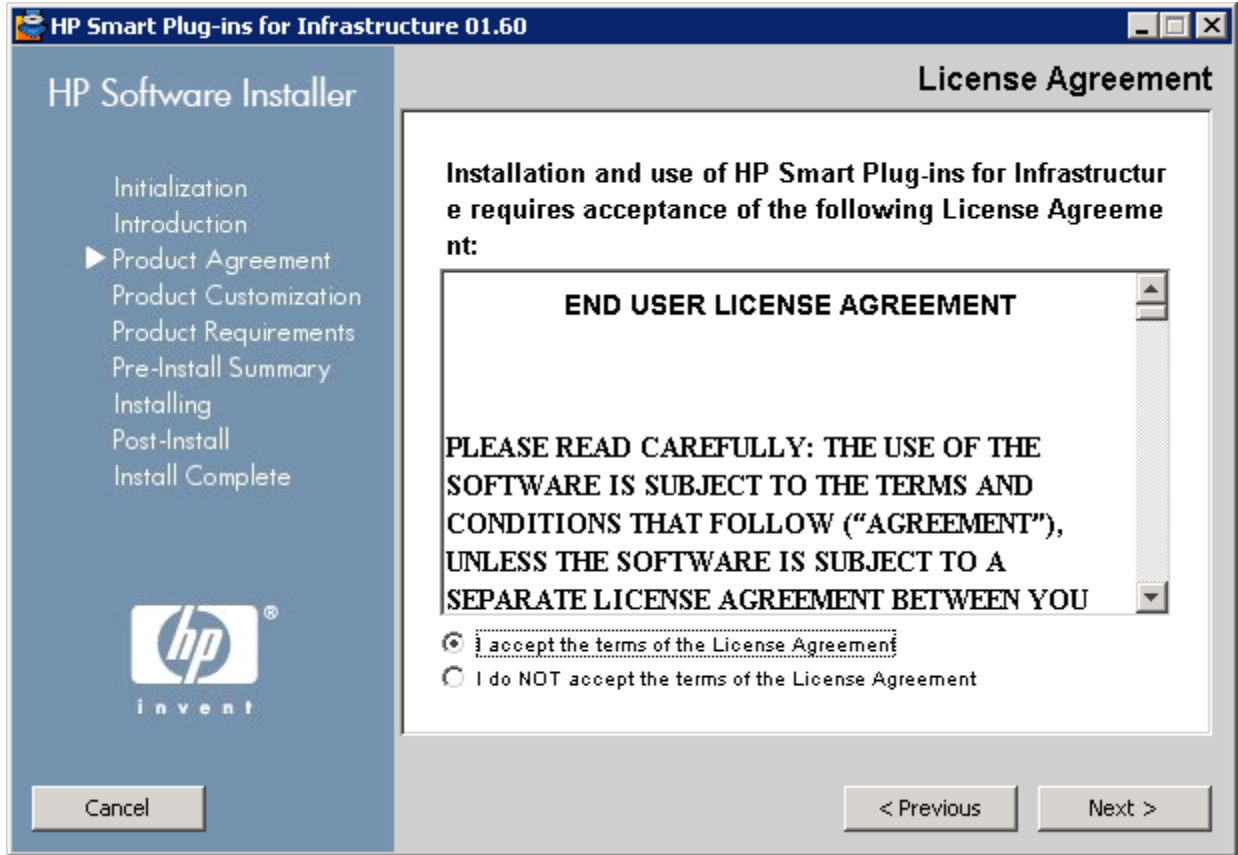
図 6 インストール ウィザードの **[Introduction (Install)]** ページ



- 8 インストール ウィザードの **[Introduction (Install)]** ページで、**[Next]** をクリックします。 **[License Agreement]** ページが表示されます。



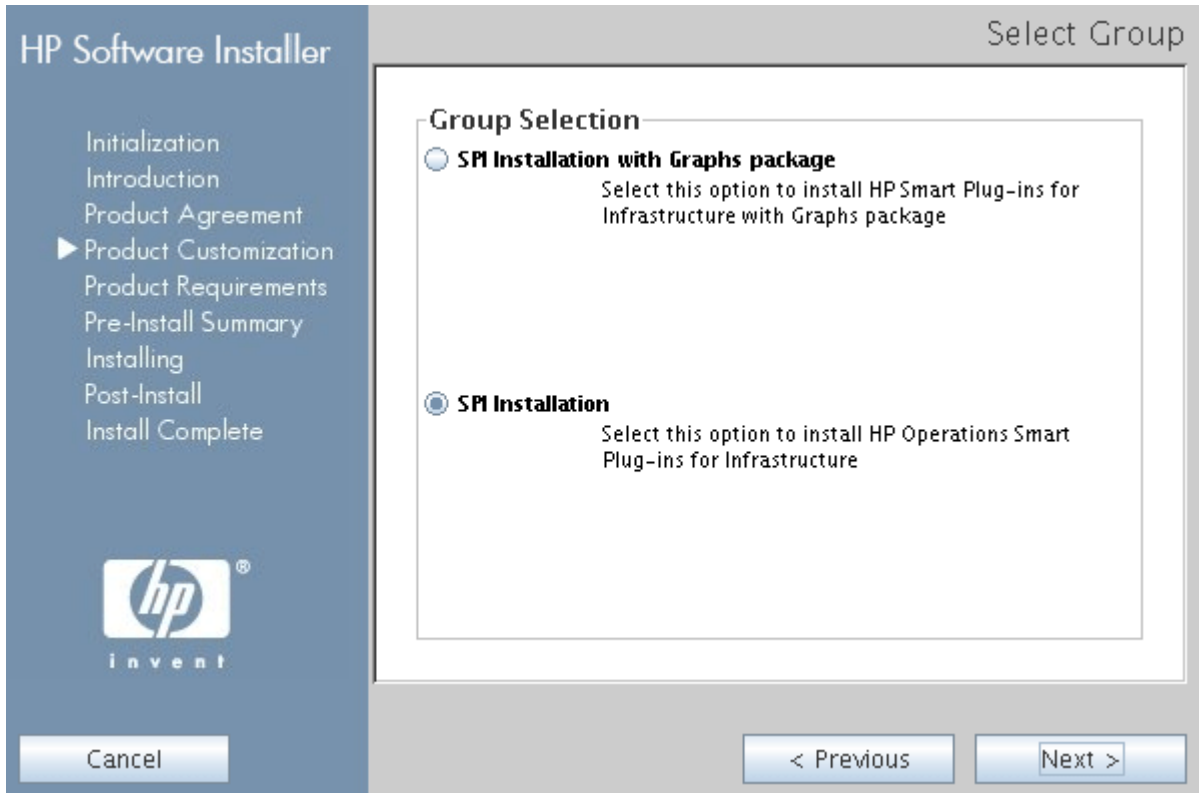
図 7 License Agreement page of the installation wizard



- 9 使用許諾契約書の条項を読み、[I accept the terms of License Agreement] オプションを選択して、[Next] をクリックします。

[Select Group] ページが開き、インストール オプションのリストが表示されます。

図 8 インストールウィザードの [Group Selection] ページ

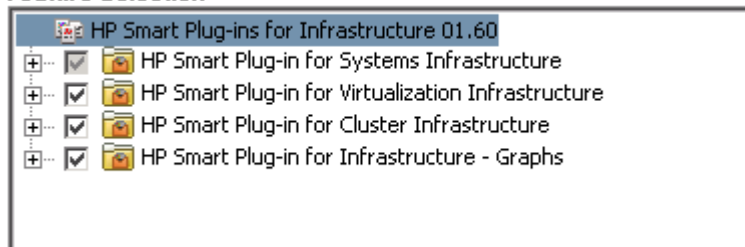


10 以下のいずれかのオプションを選択します。

— **SPI Installation with Graphs package**

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をグラフ パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフ パッケージのインストールは、HP Performance Manager が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

**Feature Selection**



HP Smart Plug-in for Systems Infrastructure のインストールは必須なため、デフォルトで選択されています。[Feature Selection] ページで使用可能な残りのオプションから、インストールする機能を選択します。

— **SPI Installation**

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をインストールするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、3つの Infrastructure SPIs のすべてのインストールが自動的に選択されます。



**Infrastructure SPIs レポート パッケージのインストール:** HPOM for UNIX の場合、HP Reporter は別のシステム (HPOM に接続されている) にインストールされるため、Infrastructure SPIs レポート パッケージは別のインストーラになります。このパッケージをインストールし、インフラストラクチャのレポートを表示するには、「HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール」の手順に従ってください。

11 [Feature Selection] ページでオプションを選択したら、**[Next]** をクリックします。

インストーラがインストール チェックを実行し始めます。

12 画面の指示に従い、**[Next]** と **[Install]** の各ボタンを使用してインストール プロセスを進めます。

インストールを完了すると、インストール ウィザードによって **[Installer Completed]** ダイアログ ボックスが表示されます。

**[Done]** をクリックして、インストールを完了します。

### コマンド行インタフェースによる Infrastructure SPIs のインストール

コマンド行インタフェースを使用して Infrastructure SPIs をインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 ルート ユーザーとしてログインします。
- 2 Infrastructure SPIs CD/DVD-ROM メディアを CD/DVD ドライブに挿入します。必要に応じて、CD/DVD-ROM をマウントします。
- 3 Infrastructure SPIs をインストールしている管理サーバーのオペレーティング システムに応じて、以下のコマンドを実行して現在のディレクトリの場所を変更します。

```
cd <OMSolaris/ OMLinux/ OMUnix>
```

- 4 以下のコマンドを実行します。

```
./HPInfraSPI_setup.bin -i console
```

- 5 ライセンス情報に関して **[I accept the terms of the License Agreement]** というプロンプトが表示されたら、「**Y**」と入力して条項に同意し、インストールを続行します。

インストーラによってすべてのインストール要件がチェックされます。

- 6 **[Enter]** を押して続行します。インストールできるコンポーネントのリストが表示されます。

- 7 **[Enter]** を押して続行します。

インストールが完了すると、インストールが正常に完了したことを示すメッセージを受信します。

### 無人インストール

無人モードで実行されるインストールでは、3 つの Infrastructures SPIs すべてと Infrastructure SPIs グラフ パッケージが管理サーバーにインストールされます。

無人インストールを実行するには、以下の手順を実行します。

- 1 ルート ユーザーとしてログインします。
- 2 Infrastructure SPIs CD/DVD-ROM メディアを CD/DVD ドライブに挿入します。必要に応じて、CD/DVD-ROM をマウントします。

- 3 Infrastructure SPIs をインストールしている管理サーバーのオペレーティング システムに応じて、以下のコマンドを実行して現在のディレクトリの場所を変更します。

```
cd <OMSolaris/ OMLinux/ OMUnix>
```

- 4 要件に従って、コマンド プロンプトで以下のいずれかの構文を入力します。

- グラフ パッケージ付き SPI のインストールでは、以下の構文を入力します。

```
HPInfraSPI_setup.bin -DGROUP=WithGraphs -i silent
```

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をグラフ パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフ パッケージのインストールは、HP Performance Manager が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

- SPI のインストールでは、以下の構文を入力します。

```
HPInfraSPI_setup.bin -i silent
```

HP Smart Plug-ins for Infrastructure をインストールするには、このオプションを選択します。



**Infrastructure SPIs レポート パッケージのインストール:** HPOM for UNIX の場合、HP Reporter は別のシステム (HPOM に接続されている) にインストールされるため、Infrastructure SPIs レポート パッケージは別のインストーラになります。このパッケージをインストールし、インフラストラクチャのレポートを表示するには、「HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール」の手順に従ってください。

インストール プロセスはバックグラウンドで行われます。

インストーラを GUI/コンソール モードで一度実行すると、システムの一時ディレクトリに `ovinstall params_YYYY.MM.DD_hh_mm.ini` ファイルが作成されます。HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システムのシステム一時ディレクトリは `/tmp` です。

このファイルがいったん生成されると、サイレント インストール用の入力設定として使用できます。サーバーやクライアントなどのグループを定義して、サーバー側アプリケーションやクライアント側アプリケーションに専用の機能を格納することもできます。グループは互いに排他的で、一度に 1 つのグループのみインストールできます。インストーラによってグループ選択パネルが表示されるため、特定のグループに合った機能を選択できます。

## Infrastructure SPIs のクラスタ環境へのインストール

HPOM のクラスタ化されたインストールでは、現在インストールが実行されている物理クラスタ ノードの部分に無関係に、すべてのノードでインストールの一貫性が維持される必要があります。一貫したインストールとは、すべてのノードに同じ SPI と HPOM パッチがインストールされることを意味します。クラスタ化されたインストールでは、すべてのクラスタ ノードで HPOM の一貫した設定も必要になります。

Infrastructure SPIs をクラスタ環境にインストールする前に、Infrastructure SPIs を最初にインストールするノードがアクティブなクラスタ ノードであることを確認してください。それ以外の場合、最初のノードへのインストールは失敗します。その後、同じパッケージを各クラスタ ノードにインストールします。または、最初のノードの選択設定ファイル (インストーラによって作成された ini ファイル) を保存し、そのファイルを使用して、他のクラスタ ノードにも同じパッケージのセットをインストールします。



HPOM コンソールは、SPI が HPOM クラスタのすべてのノードにインストールされるまで、正しく機能しません。

## HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール



HP Reporter は、Windows システム上のみインストールできるため、HPOM for UNIX の場合、常にスタンドアロンの Windows サーバー (HPOM 管理サーバーに接続されている) にインストールされます。

HPOM for Windows の場合、HP Reporter は、管理サーバーまたはスタンドアロンの Windows サーバー (HPOM 管理サーバーに接続されている) にインストールできます。

HP Reporter が HPOM 管理サーバー以外のシステム (スタンドアロン) にインストールされている場合に Infrastructure SPIs レポート パッケージをインストールするには、スタンドアロンの HP Reporter システム上で Infrastructure SPI Reporter msi ファイルを実行します。msi ファイルは、Infrastructure SPIs メディアの **[Reports]** フォルダにあります。

Infrastructure SPIs レポート パッケージを正常にインストールしたら、スタンドアロン システムからインフラストラクチャのレポートにアクセスできるようになります。

## HP Performance Manager が別のシステムにインストールされている場合のグラフ パッケージのインストール

HP Performance Manager と HPOM が同じシステムにインストールされている場合、Infrastructure SPIs グラフ パッケージを別々にインストールする必要はありません。インストーラの **[Select Features]** ページのオプションを選択すると、Infrastructure SPIs と共にインストールされます。

HP Performance Manager を HPOM がインストールされていないシステム (スタンドアロン システム) にインストールする場合、HP Performance Manager と HPOM の各システムを統合する必要があります。HP Performance Manager と HPOM for UNIX オペレーティング システムを統合する方法の詳細は、「[HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合](#)」を参照してください。

## インストール結果

以下に、Infrastructure SPIs が正常にインストールされた後の結果を HPOM サーバーのオペレーティング システムごとに示します。

### HPOM for Windows 管理サーバーでのインストール結果

Infrastructure SPIs が HPOM for Windows システムに正常にインストールされると、インストールディレクトリに `\Program Files\HP\HP BTO Software\InfraSPI` フォルダが追加されます。関連するログファイルは、`<temp%\HPOvInstaller\HPInfraSPI_<バージョン>` ディレクトリで利用できます。ログファイルのファイル名の形式は、`HPInfraSPI_<バージョン>_yyyy.MM.dd_xx_yy_HPOvInstallerLog.txt` です。このインスタンスでは、yyyy は年、MM は月、dd は日を示します。ファイル名の xx および yy は、前回インストールが実行されたタイム スタンプを示します。インストールされた SPI のインストール ログは以下で利用できます。

```
<%vInstallDir%\install\SPIInstallLogs
```

Infrastructure SPIs で提供されるドキュメントの包括的なリストは、「[製品ドキュメント](#)」(12 ページ) を参照してください。

## HPOM for UNIX 管理サーバーでのインストール結果

Infrastructure SPIs が正常にインストールされると、HPOM on Linux の関連するログ ファイルは /tmp/HPOvInstaller/HPInfraSPI\_<バージョン>ディレクトリで利用できるようになり、HPOM on HP-UX および HPOM on Solaris のログ ファイルは var/tmp/HPOvInstaller/HPInfraSPI\_<バージョン>ディレクトリで利用できるようになります。

ログ ファイルのファイル名の形式は、HPInfraSPI\_<バージョン>\_yyyy.MM.dd\_xx\_yy\_HPOvInstallerLog.txt です。このインスタンスでは、yyyy は年、MM は月、dd は日を示します。ファイル名の xx および yy は、前回インストールが実行されたタイム スタンプを示します。アプリケーションディレクトリは /opt/OV/ で、データディレクトリは /var/opt/OV/ です。

Infrastructure SPIs で提供されるドキュメントの包括的なリストは、「製品ドキュメント」(12 ページ)を参照してください。

## Operating System SPI の自動配布の削除

Infrastructure SPIs のインストール中に、インストーラは Windows および UNIX 向けの Operating System SPI の存在をチェックします。この SPI が存在している場合、Infrastructure SPI のインストールによって Operating System SPI ポリシーの自動配布が無効になります。

これは、ノードが HPOM for Windows 登録ノードに追加されたときに、常に Systems Infrastructure SPI 検出ポリシーが Operating system SPI の場所に自動配布されるようにするためです。



Systems Infrastructure SPI 検出ポリシーは、HPOM for Windows にのみ自動配布されます。

## Virtualized Infrastructure SPI バージョン 1.00 からのアップグレード

Virtualization Infrastructure SPI バージョン 1.00 が既にインストールされている場合、まずこれをアンインストールしてから、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 をインストールしてください。VI SPI 1.00 から現在のバージョンの Infrastructure SPIs に直接アップグレードすることはできません。

Infrastructure SPIs 1.60 のインストールの詳細は、このマニュアルの「インストール」の項を参照してください。

## Infrastructure SPIs バージョン 1.00 からのアップグレード

ここでは、Infrastructure SPIs バージョン 1.00 を Infrastructure SPIs バージョン 1.60 にアップグレードする方法を説明します。Infrastructure SPIs バージョン 1.00 がインストールされている場合、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 に直接アップグレードできます。これらの 2 つのバージョンについては、以下に説明します。

### Infrastructure SPIs バージョン 1.00

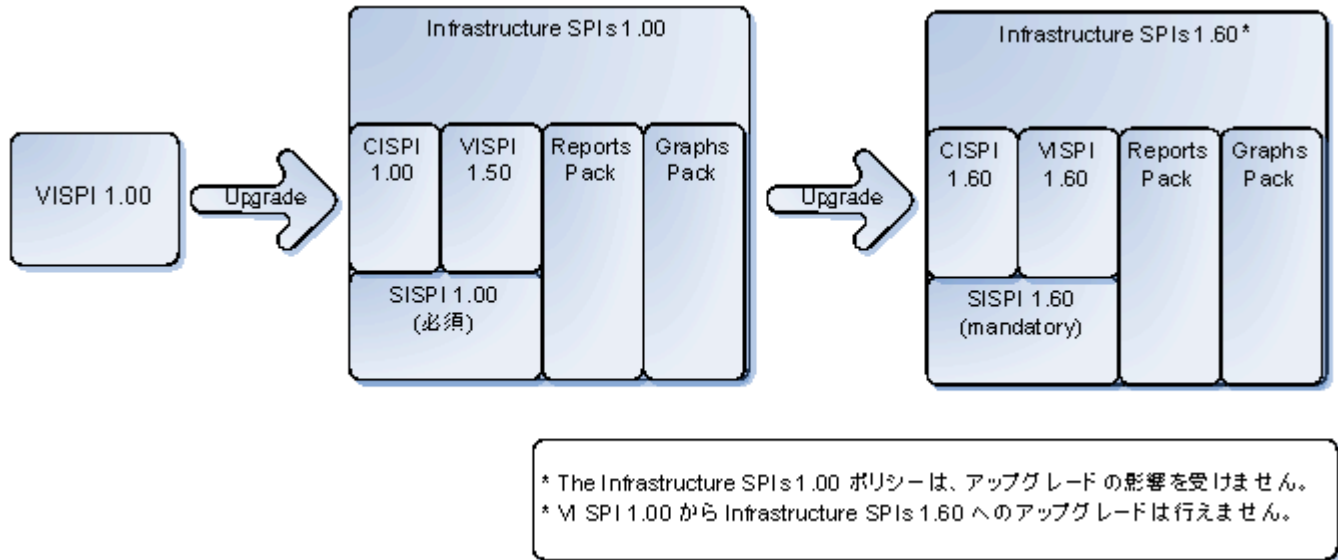
Infrastructure SPIs バージョン 1.00 では、Windows、HP-UX、および Linux オペレーティングシステム向けの HPOM がサポートされます。管理ノードでは、この SPIs によって Windows および Linux の各オペレーティングシステムがサポートされます。

## Infrastructure SPIs バージョン 1.60

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 は、Windows、HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システム向けの HPOM がサポートされます。管理ノードでは、Windows、Linux、AIX、HP-UX、および Solaris の各オペレーティング システムをサポートします。

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 に含まれている拡張機能と更新の詳細は、個々の SPI (Infrastructure SPIs の構成要素) のリリース ノートを参照してください。

図 9 アップグレードの論理的な表示



Infrastructure SPIs をバージョン 1.00 からバージョン 1.60 にアップグレードすると、最新バージョンの SI SPI、CI SPI、VI SPI が追加され、同時に以前のバージョンが保持されます。Infrastructure SPIs 用のレポート パックとグラフ パックは、バージョン 1.60 用に更新されます。

## HPOM for Windows での Infrastructure SPIs のアップグレード

HPOM for Windows 上で Infrastructure SPIs バージョン 1.60 にアップグレードするには、以下の手順を実行します。

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 のインストーラを実行します。Infrastructure SPIs のインストーラは、管理サーバー上での既存のバージョンの Infrastructure SPIs の存在を識別し、最新のバージョンにアップグレードします。アップグレードについては、「Infrastructure SPIs の HPOM for Windows 管理サーバーへのインストーラ」を参照し、GUI を使用している場合は、画面の指示に従ってください。



アップグレードの後、新しいノードは追加するが、最新バージョンのポリシーは配布しない場合、ノードの追加中に自動配布オプションを無効にしてください。

## HPOM for Windows でのアップグレード結果

アップグレードの後、関連するログ ファイルは、<temp ディレクトリ>/HPovInstaller ディレクトリで利用できます。ログ ファイルには、該当するメッセージも含まれています。ログ ファイルのファイル名の形式は、Util-MM-dd-yyyy.log.0 です。このインスタンスでは、MM は月、dd は日、yyyy は年を示します。

アップグレードアクションによって、管理サーバー上のポリシー、ツール、およびサービスモデルの SPI 設定が自動的に更新されます。

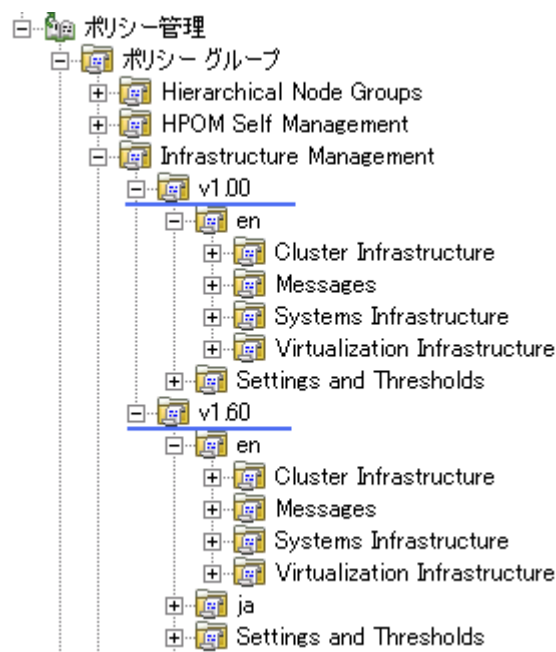
現在のリリースの Infrastructure SPIs には、ポリシーとポリシーグループに対する以下の変更または追加が含まれています。

- ポリシーグループ

現在のリリースの Infrastructure SPIs には、監視対象要素およびポリシーがサポートされているプラットフォームに従って、新しいポリシーグループが組み込まれます。

アップグレードの後、SPI for Infrastructure というグループ名は、自動的に Infrastructure Management に変わります。SPI for Infrastructure の下で行われた以前のすべての割り当ては、新しいポリシーグループ **v1.00** の下に表示されます。アップグレードによって、以下の図に示すように **v1.60** フォルダも作成され、現在のバージョンのポリシーが格納されます。

図 10 HPOM for Windows での Infrastructure SPIs 1.60 対応のポリシーのグループ化



- ポリシーのバージョン番号

Infrastructure SPIs ポリシーのバージョン番号 1.60 は、すべてのポリシーでバージョン番号 160.0000 に更新されます。

- ポリシー

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 のリリースには、新規ポリシーと更新済みのポリシーが含まれていません。Infrastructure SPIs バージョン 1.60 で提供されるポリシーのリストは、「付録 6」を参照してください。Infrastructure SPIs バージョン 1.60 で提供されるポリシーの説明と詳細は、SPI のユーザーガイドを参照してください。

- グラフ

Infrastructure SPIs バージョン 1.00 では、グラフコンポーネントは SPI for Infrastructure というフォルダの下にグループ化されていました。アップグレードの後、古いグラフコンポーネントは、Infrastructure Performance と呼ばれる新しいフォルダの下の新しいコンポーネントで置き換えられます。



図 11 グラフ コンポーネントのグループ化



- レポート  
アップグレードの後、既存のレポート ファイルは新しいレポート ファイルで置き換えられます。レポートを更新するには、以下のコマンドを実行します。
  - a [スタート] メニューに移動します。
  - b [ファイル名を指定して実行] を選択します。
  - c プロンプトで、コマンドとして「**repcrys**」と入力し、**[OK]** をクリックします。
- ツール  
アップグレードの後、既存のツールは新しいツールで置き換えられます。ローカライズされた環境では、Infrastructure SPI v1.0 で存在していた英語版のツールが infrastructure SPI v1.60 のローカライズされたツールに置き換えられます。

## アップグレード後のポリシーの配布

2 つの Infrastructure SPI バージョンから同じノードへのポリシーの配布はサポートされていません。SPI ポリシーの組み合わせ (たとえば、Systems Infrastructure SPI 1.00 ポリシーと Virtualization Infrastructure SPI 1.60 ポリシー) を同じノードに配布しないでください。

ノードに既に配布済みの古いバージョンのポリシーがあり、最新バージョンのポリシーを使用してノードを監視する場合、まず古いバージョンをクリーンアップしてから、最新の SI-SystemDiscovery ポリシーをノードに配布します。これで、正しいインストールメンテーション カテゴリが管理ノードに配布されるようになります。

HP OM for Windows では、ノードが Infrastructure SPI v1.0 ポリシーによって管理されている場合、自動配布をオフにして、Infrastructure SPI 1.60 ポリシーのこのノードへの自動配布を防止する必要があります。

インストールメンテーション ファイルを管理ノードに手動で配布する場合は、1 つのバージョンのファイルのみ選択してください。

## HPOM on Linux および HPOM on HP-UX での Infrastructure SPIs のアップグレード

HPOM on Linux および HPOM on HP-UX で Infrastructure SPIs バージョン 1.60 にアップグレードするには、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 用のインストーラを実行します。Infrastructure SPIs のインストーラは、管理サーバー上での既存のバージョンの Infrastructure SPIs の存在を識別し、最新のバージョンにアップグレードします。インストール手順については、「Infrastructure SPIs の HPOM for UNIX 管理サーバーへのインストール」を参照してください。

アップグレードの後、ノードを追加すると、そのノードは自動的に Infrastructure SPIs バージョン 1.60 によって作成された新しいノード グループに追加され、最新のポリシーがそれらのノードに自動的に割り当てられます。他方、既存のノードには、以前のバージョンのポリシーが割り当てられたままになっています。最新のポリシーを配布するノードでは、手動で SI-SystemDiscovery を実行して、それらのノードを新しいノード グループに追加します。

## HPOM on Linux および HPOM on HP-UX でのアップグレード結果

アップグレードの後、関連するログ ファイルは、<temp ディレクトリ>/HPOvInstaller ディレクトリで利用できます。ログ ファイルには、該当するメッセージも含まれています。ログ ファイルのファイル名の形式は、Util-MM-dd-yyyy.log.0 です。このインスタンスでは、MM は月、dd は日、yyyy は年を示します。

アップグレード アクションによって、管理サーバー上のポリシー、ツール、およびサービス モデルの SPI 設定が自動的に更新されます。

現在のリリースの Infrastructure SPIs には、ポリシーとポリシー グループに対する以下の変更または追加が含まれています。

- ポリシー グループ

現在のリリースの Infrastructure SPIs には、監視対象要素およびポリシーがサポートされているプラットフォームに従って、新しいポリシー グループが組み込まれます。

アップグレードの後、SPI for Infrastructure というグループ名は、自動的に Infrastructure Management に変わります。SPI for Infrastructure の下で行われた以前のすべての割り当ては、v1.00 の下に表示されます。アップグレードによって、以下の図に示すように v1.60 フォルダも作成され、現在のバージョンのポリシーが格納されます。

図 12 HPOM for UNIX での Infrastructure SPIs 1.60 対応のポリシーのグループ化



アップグレード後にポリシーの両方のバージョンが共存します。

- ポリシーのバージョン番号

Infrastructure SPIs ポリシーのバージョン番号 1.60 は、すべてのポリシーでバージョン番号 160.0000 に更新されます。

- ポリシー

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 のリリースには、新規ポリシーと更新済みのポリシーが含まれています。Infrastructure SPIs バージョン 1.60 で提供されるポリシーのリストは、「付録 6」を参照してください。Infrastructure SPIs バージョン 1.60 で提供されるポリシーの説明と詳細は、SPI のユーザー ガイドを参照してください。

- ノード グループ

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 では、短いノード グループ名を持つ新しいノード グループが使用されます。古いノード グループ名は将来使用されなくなります。

アップグレード プロセスでは、Infrastructure SPI バージョン 1.00 によって作成された古いノード グループは削除されません。既存のノードに最新のポリシーを配布する場合、以下の手順を実行します。

- バージョン 1.60 の InfraSPI-Messages、SI-SystemDiscovery、OPC OPCMON\_OVERRIDE\_THRESHOLD、および OPC\_PERL\_INCLUDE\_INSTR\_DIR の各ポリシーを HPOM 上に配布します。
- 管理ノードで SI SPI 検出ポリシーを実行します。SI SPI によって既存のノードが新しいノード グループに追加され、同様のことを通知するメッセージが HPOM コンソールに送信されます。
- 古いノード グループに対して行ったポリシーの割り当ては新しいノード グループには引き継がれないため、必要なポリシーをこれらのノードに手動で割り当てます。

HPOM Java GUI には、Infrastructure SPIs 1.00 ノード グループを HPOM for UNIX (Linux and HP-UX) から削除するための **[Cleanup 1.0 Node Groups]** というツールが用意されています。このツールは、前のバージョン (1.00) で提供されたすべてのノード グループを削除します。

以下のいずれかのオプションを使用すると、このツールを実行できます。

#### — [Start] オプション

[Start] オプションを使用すると、ノード グループの削除方法に関する手順を確認できます。デフォルトのパラメータは **-n** に設定されています。このパラメータを **-y** に設定して、ツールを実行し手順を読みます。

#### — [Start Customized] オプション

[Start Customized] オプションを使用すると、Infrastructure SPIs 1.0 のノード グループを削除できます。デフォルトのパラメータは **-n** に設定されています。このパラメータを **-y** に設定して、ツールを実行し、Infrastructure SPI 1.0 ノード グループを削除します。

- メッセージ グループ

アップグレードによって、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 のメッセージ用に **OS** と **HA** という新しいメッセージ グループが作成されますが、前のメッセージ グループの **System** と **Clusters** は保持されます。新しいメッセージ グループが作成されても、現在のバージョンと同様に、システムに既に存在している古いメッセージ グループは削除されません。

- ツール

アップグレードの後、既存のツールは新しいツールで置き換えられます。

## アップグレード後のポリシーの配布

- 2つの Infrastructure SPI バージョンから同じノードへのポリシーの配布はサポートされていません。SPI ポリシーの組み合わせ (たとえば、Systems Infrastructure SPI 1.00 ポリシーと Virtualization Infrastructure SPI 1.60 ポリシー) を同じノードに配布しないでください。
  - ノードに既に配布済みの古いバージョンのポリシーがあり、最新バージョンのポリシーを使用してノードを監視する場合、まず古いバージョンをクリーンアップしてから、最新の SI-SystemDiscovery ポリシーをノードに配布します。これで、正しいインストールメンテーション カテゴリが管理ノードに配布されるようになります。
  - インストールメンテーション ファイルを管理ノードに手動で配布する場合は、1つのバージョンのファイルのみ選択してください。
- Infrastructure SPIs のアップグレード後に、以下の図に示すように、ポリシーには **[Assigned]** および **[Latest]** の下に異なるバージョンが表示されます。

Details Windows Filter

Found 1 Elements

Type	Name	Assigned	Latest	Mode
<input type="checkbox"/>	SI-MSWindowsRemoteDrivesSpaceUtilization	100.0	160.0	Fixed

Choose an action

/ Policy Bank / Infrastructure Management / v1.60 / en / Systems Infrastructure / Capacity / Windows

I

- これらのバージョンを手動で変更したり、以下の図に示すドロップダウン メニューを使用して、**[Mode]** を **[Fixed]** から **[Minor to latest]** または **[Latest]** に変更したりしないことをお勧めします。

Assignment Latest \*

Mode Latest

Version Minor to latest \*

Fixed

OK Cancel

## Operating System SPIs から Infrastructure SPIs への移行

Infrastructure SPIs をインストールすると、結果として Smart Plug-in for Microsoft Windows オペレーティングシステムと Smart Plug-in for UNIX オペレーティングシステム (Operating System SPIs) にいくつかの変更が行われます。Infrastructure SPI をインストールすると、Operating System SPIs のポリシーの自動配布が無効になります。詳細については、「[Operating System SPI の自動配布の削除](#)」を参照してください。

Operating System SPIs から Infrastructure SPIs に移行するには、以下のタスクを実行します。

## タスク 1: 管理ノードからの Operating System SPIs のポリシーの削除

Infrastructure SPIs のソフトウェアスイートには、HPOM for Windows 上で設定されている Windows (Windows 2000 サーバーを除く)、HP-UX、Linux、AIX、および Solaris のすべての管理ノードから、Operating System SPIs のポリシーを配布解除するスクリプトが用意されています。

管理サーバー上でスクリプトを実行するには、以下のコマンドを使用します。

```
cd %OvInstallDir%/install/INFRASPI/support/  
cscript Undeploy_OSSPIPolicies.vbs
```

このスクリプトは、管理ノードから Operating System SPIs のポリシーを削除しますが、管理サーバーのデータベース インベントリからそれらのポリシーを削除するわけではありません。

管理ノードがダウンしているか、到達不能な場合、ポリシーの削除は失敗します。詳細については、<OvInstallDir>/install/INFRASPI/log/ にあるログ ファイルを参照してください。



このスクリプトは、HPOM for Windows 上で設定されている管理ノードからポリシーを削除するのに使用できます。HPOM for UNIX オペレーティング システム上で設定されている管理ノードの場合、ポリシーは手動で削除できます。

## タスク 2: Infrastructure SPIs のポリシーの配布

管理ノードにポリシーを配布/割り当てる前に、Systems Infrastructure SPI 検出を実行する必要があります。詳細については、「はじめに」を参照してください。



## 3 検証

この章では、インストール後に Infrastructure SPIs のコンポーネントを検証するための情報をご覧ください。

Infrastructure SPIs をインストールしたら、監視するノードを管理コンソールに追加します。Infrastructure SPIs をインストールすると、コンポーネントが HPOM コンソール ツリーに追加されます。以下の項では、これらのコンポーネントについて説明します。

### HPOM for Windows での Infrastructure SPIs のコンポーネント

以下に、HPOM for Windows コンソールでの Infrastructure SPIs のコンポーネントを示します。

#### サービス

ノードを HPOM for Windows 登録ノードに追加すると、SI SPI サービス検出ポリシーが自動的に配布されます。

このサービス検出ポリシーは、ノード上のシステム インフラストラクチャとサービスを検出し、この情報を HPOM サービス領域に追加します。検出されたシステムとインスタンスをグラフィカルに表示する SI SPI サービス マップを表示するには、**[サービス]** → **[Systems Infrastructure]** を選択します。



Infrastructure SPIs のインストール後に HPOM for Windows サーバーに追加された新しいノードでは、検出ポリシーが自動配布されます。既存のノードでは、SI SPI 検出ポリシーを手動で配布する必要があります。

インストールされた Infrastructure SPIs のルート要素は、以下の図に示すように、HPOM コンソールの [サービス] の下に表示されます。

図 13 HPOM for Windows のサービス



HPOM for Windows の場合、検出時に SI SPI 検出ポリシーが管理ノードを仮想化サーバーとして識別した場合、そのノード上で VI SPI 検出が起動されます。SI SPI 検出ポリシーがノードをクラスタ ノードとして識別した場合、そのノード上で CI SPI 検出ポリシーが起動されます。

#### Virtual Infrastructure の検出

HPOM for Windows では、VMware vMA を管理ノードとして追加すると、SI SPI によって、vMA ノードに登録されている ESX/ESXi サーバーと vCenter サーバーが登録ノードに自動的に追加されます。

VI SPI 検出ポリシーは、HPOM 管理サーバーの XPL 設定 `infraspi.AutoAdd_Guests` が `true` に設定されている場合、ESX、ESXi、および vCenter の各サーバーでホストされているゲスト仮想マシンを自動的に登録ノードに追加します。デフォルトでは、この設定は `false` に設定されています。これは、検出時に多数の仮想マシンがまとめて追加され、パフォーマンスが低下することを防ぐためです。この値を `true` に設定して VI SPI 検出を再実行すると、仮想マシンの自動追加機能を有効にすることができます。自動アクションを実行するのに都合のよい時間を選択することもできます。



Hyper-V サーバー上でホストされているゲスト仮想マシンは、検出時または検出後に自動的に登録ノードに追加されることはありません。これは、WMI 内のゲスト仮想マシンの IP アドレスを使用できないことによります (Microsoft Hyper-V の制限事項)。ゲストは、SNMP/メッセージ許可/管理の各ノードとして手動で追加できます。

検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。検出された仮想システムをグラフィカルに表示する VI SPI サービス マップを表示するには、**[サービス] → [Virtualization Infrastructure]** を選択します。

VMware vMA の詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.vmware.com/support/developer/vima/>

Microsoft Hyper-V の詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.microsoft.com/virtualization/products/server/default.aspx>

#### Cluster Infrastructure の検出

HPOM for Windows では、SI SPI 検出ポリシーがノードをクラスタ ノードとして識別した場合、そのノード上で CI SPI 検出ポリシーが起動されます。CI SPI 検出は、クラスタ、クラスタ ノード、およびリソースグループを検出します。Cluster Infrastructure SPI サービス マップを表示するには、**[サービス] → [Cluster Infrastructure]** の順に選択します。

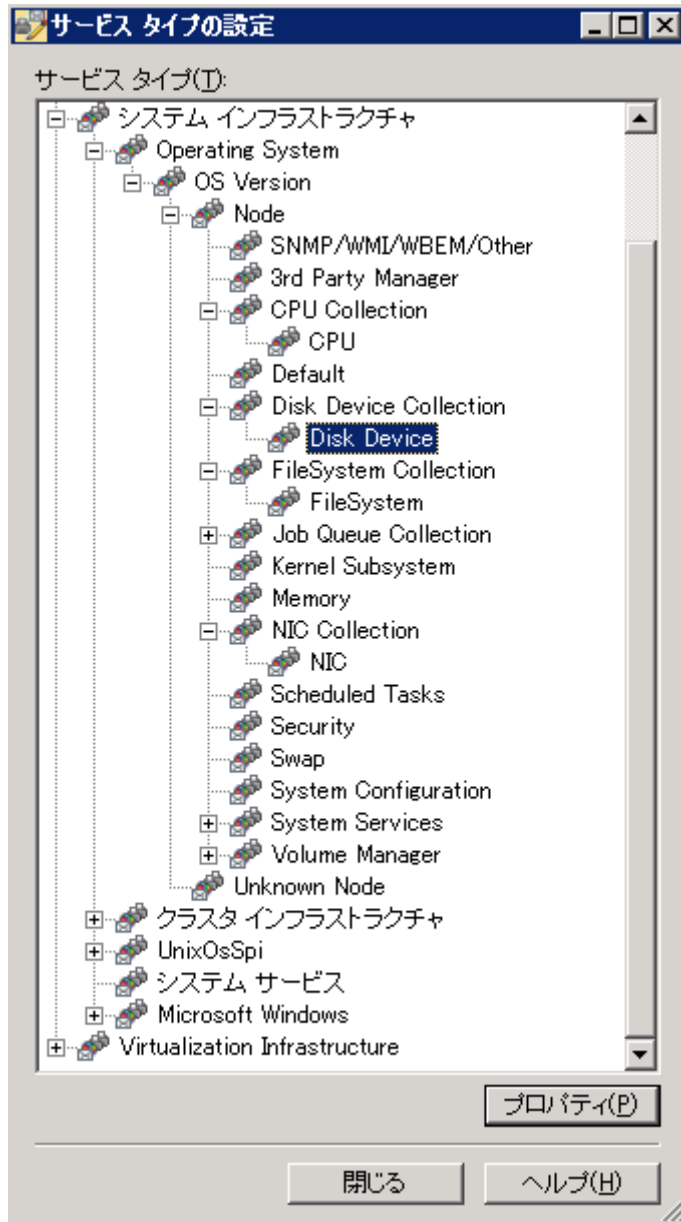


## サービス タイプ モデル

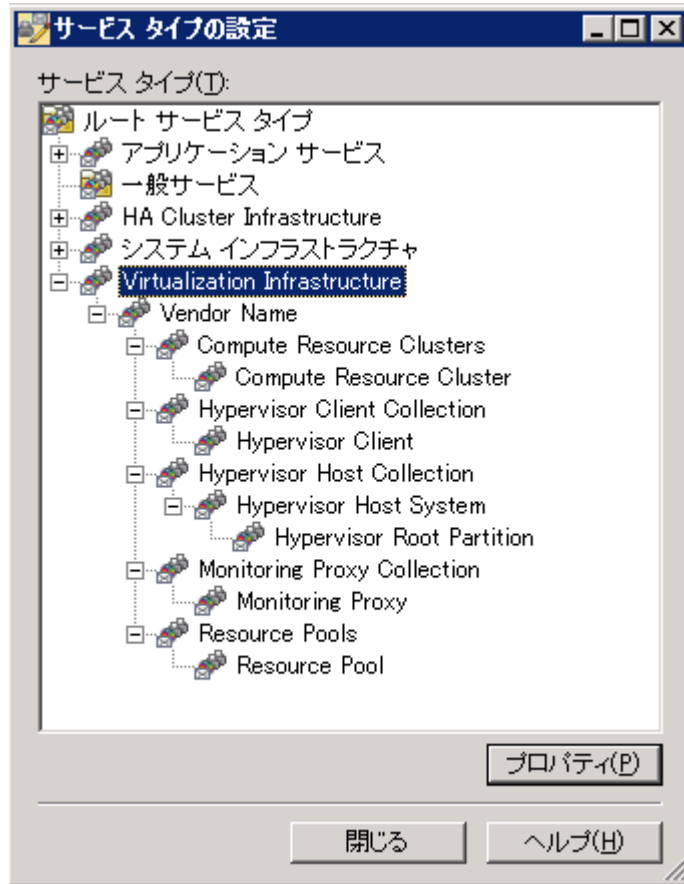
サービス タイプ モデルでは、登録ノードのノードの論理的な割り当て先となるサービス タイプ カテゴリが表示されます。HPOM for Windows では、サービス タイプ モデルを表示できます。

以下の図に、Systems Infrastructure SPI 用のサービス タイプ モデルを示します。

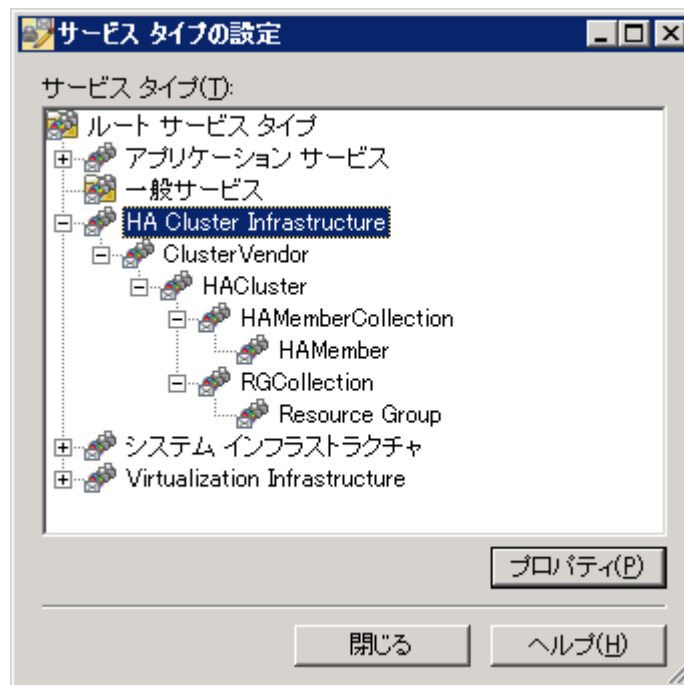
図 14 サービス タイプ モデル



以下の図に、Virtualization Infrastructure SPI 用のサービス タイプ モデルを示します。

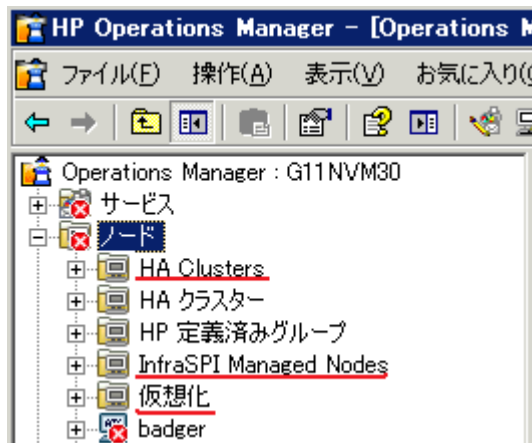


以下の図に、Cluster Infrastructure SPI 用のサービス タイプ モデルを示します。



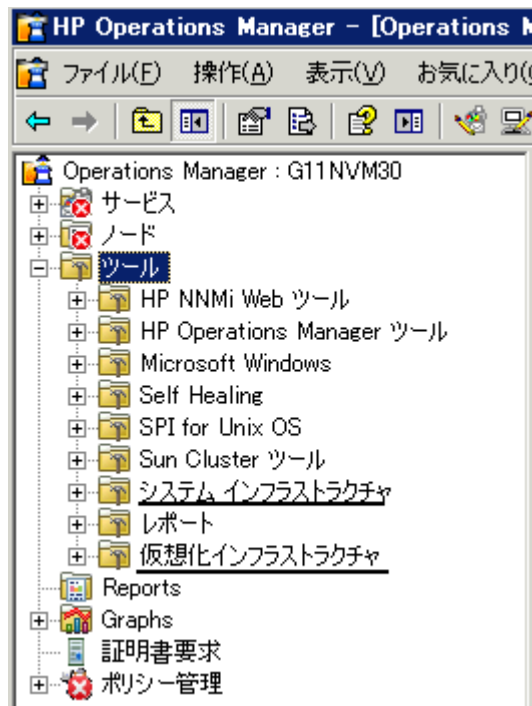
## ノード

Infrastructure SPIs をインストールすると、コンソール ツリーの **[ノード]** フォルダの下に 2 つのフォルダが追加されます。



## ツール

ツールは SI SPI および VI SPI 用に提供されます。Systems Infrastructure SPI ツール グループにアクセスするには、以下の図に示すように、**[ツール]** → **[システム インフラストラクチャ]** の順に選択し、Virtualization Infrastructure SPI ツール グループにアクセスするには、**[ツール]** → **[仮想化インフラストラクチャ]** の順に選択します。



## ポリシー管理

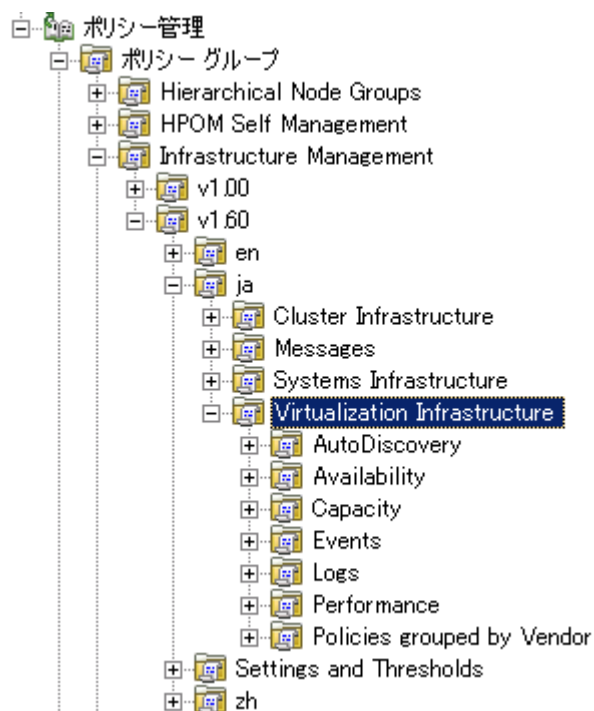
Infrastructure SPI ポリシーを使用すると、IT インフラストラクチャの可用性、容量、およびパフォーマンスを監視できます。Infrastructure SPIs バージョン 1.60 以降、Infrastructure SPIs をインストールすると、HPOM コンソールの現在のバージョン番号の下にポリシー グループが表示されます。たとえば、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 の場合、ポリシー グループは v1.60 として表示されます。

ポリシーは、バージョングループの下で言語に従ってグループ化されます。たとえば、英語のポリシーは [en] の下で、日本語のポリシーは [ja] の下で、簡体中国語のポリシーは [zh] の下でグループ化されます。言語のグループは、インストール時に選択した言語に従って表示されます。

それ以降のグループ化は、インストール時に選択した Systems Infrastructure SPI、Cluster Infrastructure SPI、および Virtualization Infrastructure SPI に基づきます。各 SPI の下では、パフォーマンス、可用性、容量、ログ、イベントなどの要素によってポリシーがグループ化されます。

オペレーティングシステムとベンダーに基づいた新しいポリシーグループもあり、1つの場所からご使用のオペレーティングシステムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。ベンダー別にグループ化されたポリシーには、QuickStart ポリシーと高度なポリシーがあります。HPOM for Windows では、QuickStart ポリシーが登録ノードに追加されると、サポートされている管理ノードに自動的に配布されます。これらをそのまま使用して、システムインフラストラクチャに関するデータや環境からのメッセージの受信を開始できます。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前でも保存し、目的に応じたカスタムポリシーを作成することもできます。QuickStart ポリシーの配布の詳細は、「Quick Start ポリシーの HPOM for Windows への配布」を参照してください。

図 15 Infrastructure SPIs のポリシーグループ



Systems Infrastructure SPI ポリシーを表示しアクセスするには、[ポリシー管理] → [ポリシーグループ] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] の順に選択します。

Virtualization Infrastructure SPI ポリシーを表示しアクセスするには、[ポリシー管理] → [ポリシーグループ] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] の順に選択します。

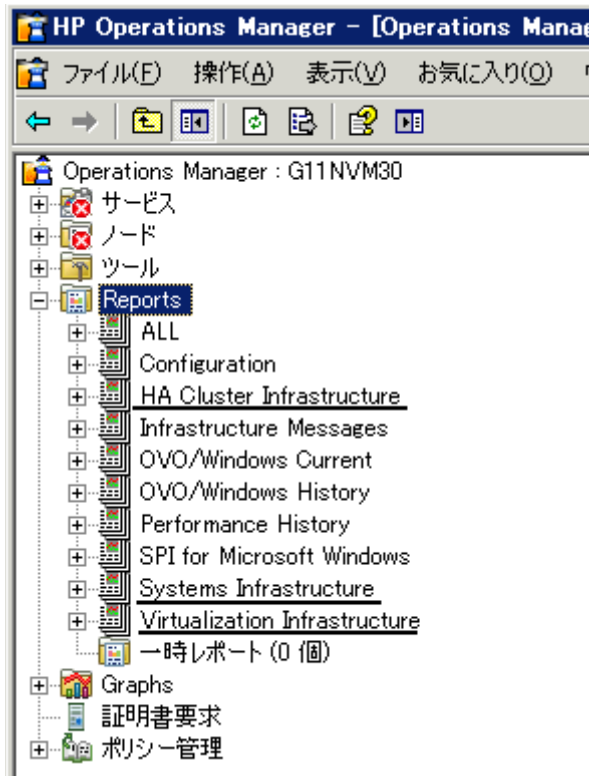
Cluster Infrastructure SPI ポリシーを表示しアクセスするには、**[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [言語] → [Cluster Infrastructure]** の順に選択します。

## レポート

Infrastructure SPIs 固有のレポートを表示するには、レポート パッケージを Infrastructure SPIs メディアから管理サーバーにインストールする必要があります。

HP Reporter が HPOM for Windows 管理サーバーにインストールされている場合、以下の図に示すように、コンソールからレポート グループを表示できます。

図 16 HPOM for Windows での Infrastructure SPIs 用のレポート



または HP Reporter が HPOM 管理サーバーに接続している別のスタンドアロン システムにインストールされている場合、HP Reporter スタンドアロン システム上でレポートを表示できます。スタンドアロン システム上で HP Reporter GUI を表示するには、「[HP Reporter GUI](#)」を参照してください。

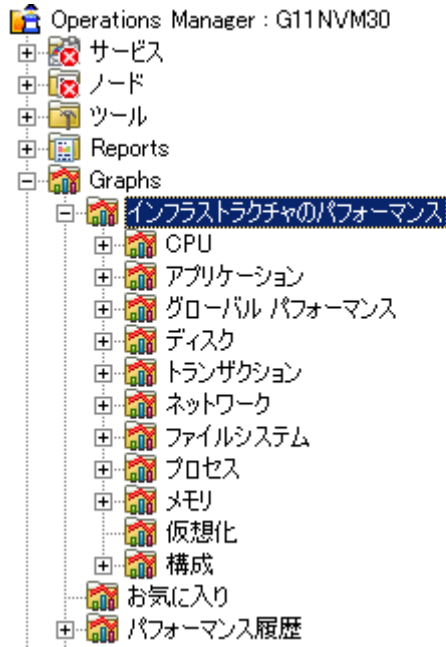
Reporter パッケージのインストールの詳細は、「[HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール](#)」を参照してください。

## グラフ

SI SPI と VI SPI には、一連の設定済みのグラフが備わっています。HPOM コンソールからグラフにアクセスするには、Infrastructure SPI グラフ パッケージをインストールする前に、HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーにインストールする必要があります。

Systems Infrastructure SPI グラフにアクセスするには、以下の図に示すように、**[Graphs] → [インフラストラクチャのパフォーマンス]** の順に選択し、Virtualization Infrastructure SPI グラフにアクセスするには、**[Graphs] → [インフラストラクチャのパフォーマンス] → [仮想化]** の順に選択します。

図 17 Infrastructure SPIs 用のグラフ



または HP Performance Manager が HPOM 管理サーバーに接続している別の (スタンドアロン) システムにインストールされている場合、HP Performance Manager スタンドアロン システム上でグラフを表示できます。

## HPOM for UNIX での Infrastructure SPIs のコンポーネント

以下に、HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) コンソールでの Infrastructure SPIs のコンポーネントを示します。

### サービス

ノードを HPOM for HP-UX、Linux、または Solaris 登録ノードに追加したら、SI SPI サービス検出手動で配布します。このサービス検出ポリシーは、ノード上のシステム インフラストラクチャとサービスを検出し、この情報を HPOM サービス領域に追加します。

#### Virtual Infrastructure の検出

仮想化ノード (VMware vMA または Microsoft Hyper-V) を HPOM for HP-UX、Linux、または Solaris 登録ノードに追加した場合は、VI SPI サービス検出手動で配布します。

VMware vMA の詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

**<http://www.vmware.com/support/developer/vima/>**

Microsoft Hyper-V の詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

**<http://www.microsoft.com/virtualization/products/server/default.msp>**

VI SPI 検出ポリシーは、管理ノード (ホスト マシン) 上でホストされている仮想マシン (ゲスト マシン) を検出し、この情報を HPOM サービス領域に追加します。VI SPI サービス マップを表示するには、**[Services]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Show Graph]** の順に選択します。サービス マップは、検出された仮想システムをグラフィカルに表示します。

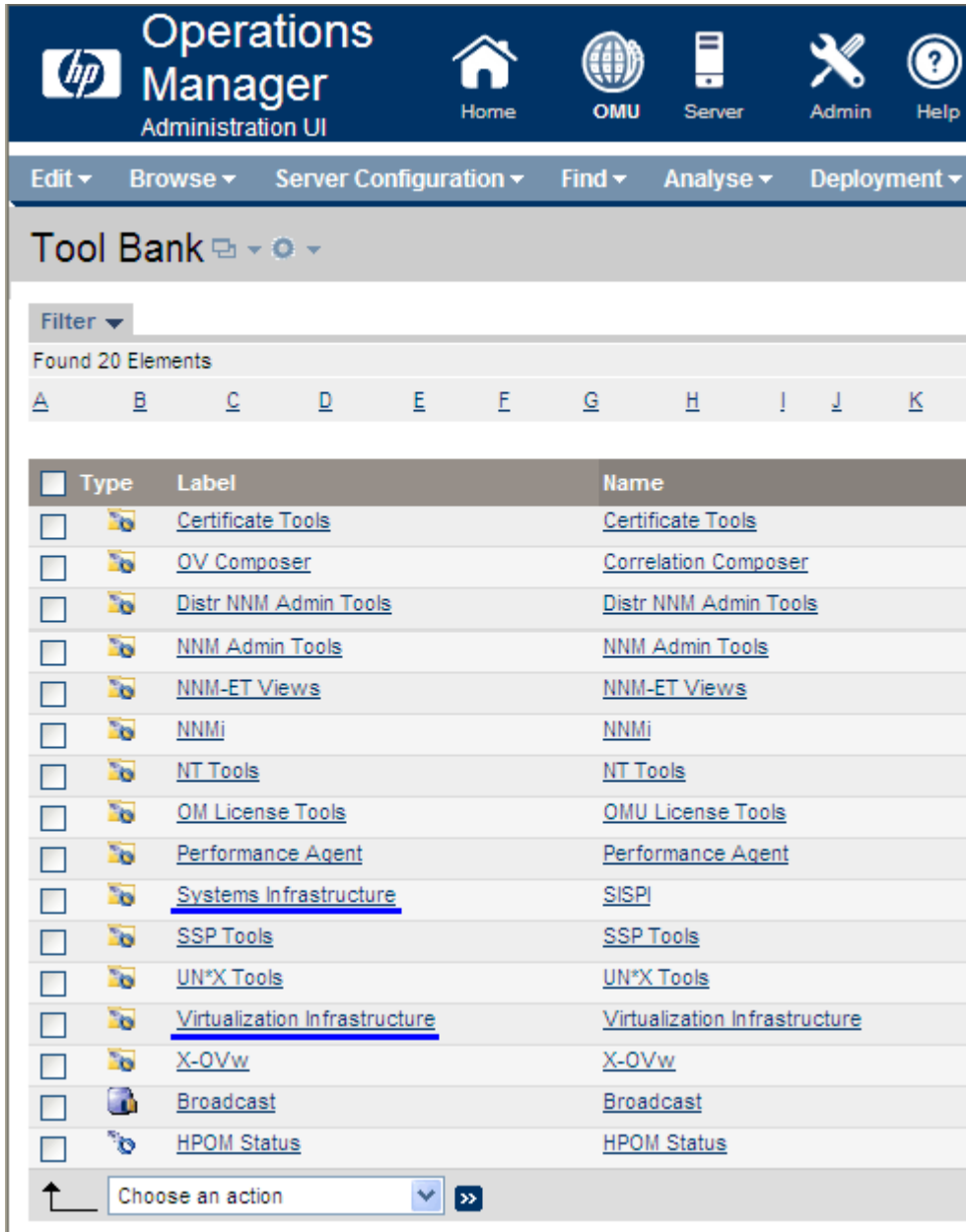
#### クラスタ インフラストラクチャの検出

クラスタ ノードを HPOM for HP-UX、Linux、または Solaris 登録ノードに追加した場合は、CI SPI サービス検出を手動で配布します。CI SPI 検出は、クラスタ、クラスタ ノード、およびリソース グループを検出します。CI SPI サービス マップを表示するには、**[Services]** → **[Cluster Infrastructure]** → **[Show Graph]** の順に選択します。

## ツール

Infrastructure SPIs には、SI SPI および VI SPI 用のツールが用意されています。SI SPI ツール グループにアクセスするには、以下の図に示すように、**[Tool Bank]** → **[Systems Infrastructure]** の順に選択し、VI SPI ツール グループにアクセスするには、**[Tool Bank]** → **[Virtualization Infrastructure]** の順に選択します。

図 18 Infrastructure SPIs ツール



## ポリシー管理

Infrastructure SPI ポリシーを使用すると、IT インフラストラクチャの可用性、容量、およびパフォーマンスを監視できます。Infrastructure SPIs バージョン 1.60 以降、Infrastructure SPIs をインストールすると、HPOM コンソールの現在のバージョン番号の下にポリシー グループが表示されます。たとえば、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 の場合、ポリシー グループは v1.60 として表示されます。

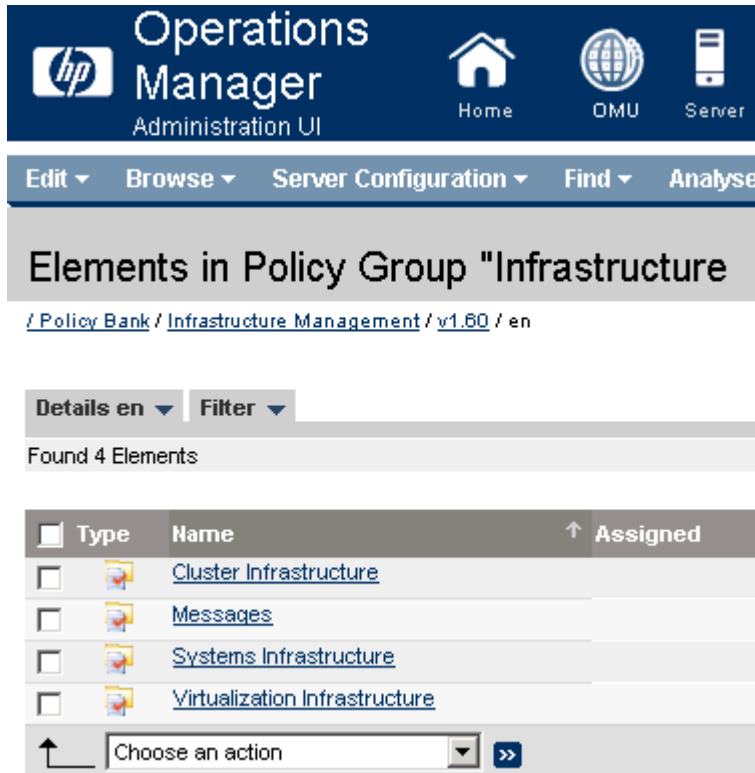
ポリシーは、バージョングループの下で言語に従ってグループ化されます。たとえば、英語のポリシーは [en] の下で、日本語のポリシーは [ja] の下で、簡体中国語のポリシーは [zh] の下でグループ化されます。言語のグループは、インストール時に選択した言語に従って表示されます。



それ以降のグループ化は、インストール時に選択した Systems Infrastructure SPI、Cluster Infrastructure SPI、および Virtualization Infrastructure SPI に基づきます。各 SPI の下では、パフォーマンス、可用性、容量、ログ、イベントなどの要素によってポリシーがグループ化されます。オペレーティング システムとベンダーに基づいた新しいポリシー グループもあり、1 つの場所からご使用のオペレーティング システムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。ベンダー別にグループ化されたポリシーには、QuickStart ポリシーと高度なポリシーがあります。HPOM for HP-UX/Linux/Solaris の場合、QuickStart ポリシーは自動的に配布されないため、手動で配布できます。QuickStart ポリシーの配布の詳細は、「[Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX への配布](#)」を参照してください。

以下の図に、英語のポリシー グループを示します。

図 19 HPOM for HP-UX/Linux/Solaris での Infrastructure SPIs ポリシー グループ



SI SPI ポリシーを表示しアクセスするには、**[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [[<言語>](#)] → [Systems Infrastructure]** の順に選択します。

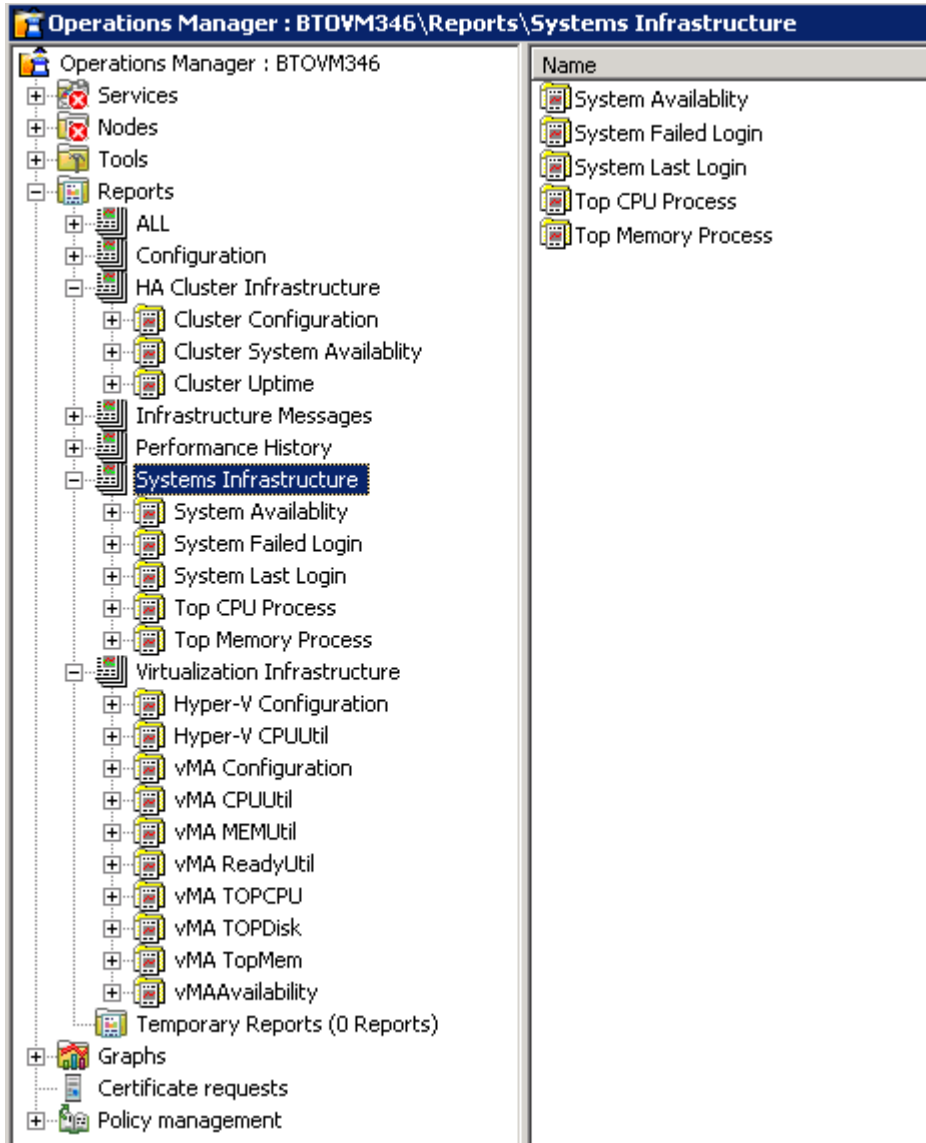
VI SPI ポリシーを表示しアクセスするには、**[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [[<言語>](#)] → [Virtualization Infrastructure]** の順に選択します。

CI SPI ポリシーを表示しアクセスするには、**[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [[<言語>](#)] → [Cluster Infrastructure]** の順に選択します。

## レポート

HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システムの場合、HP Reporter を管理サーバーに接続されている別の (スタンドアロン) システムにインストールします。レポートは、HP Reporter スタンドアロン システムで表示できます。以下の図に、スタンドアロン システムの HP Reporter UI を示します。

図 20 HP Reporter GUI



HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『*HP Reporter インストールおよび特別構成ガイド*』を参照してください。

## グラフ

Infrastructure SPIs には、SI SPI および VI SPI 用のグラフが用意されています。収集されたデータからグラフを生成および表示するには、HP Performance Manager を HPOM と連動して使用する必要があります。

グラフにアクセスするには、アクティブなメッセージを選択して [Message Properties] ウィンドウを開き、**[Actions]** をクリックします。[Operator initiated action] 項で、**[Perform]** をクリックします。または、アクティブなメッセージを右クリックして **[Perform/Stop Action]** を選択し、**[Perform Operator-Initiated Action]** をクリックします。

HP Performance Manager が管理サーバーにインストールされている場合、管理サーバー上でグラフを起動して表示できます。HP Performance Manager が HPOM 管理サーバーに接続している別の (スタンドアロン) システムにインストールされている場合は、HP Performance Manager スタンドアロン システム上でグラフを表示できます。HP Performance Manager と HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システム向けの HPOM を統合する方法の詳細は、「[HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合](#)」を参照してください。



## 4 はじめに

この章では、初めて Infrastructure SPIs を使用する際の方法について説明します。

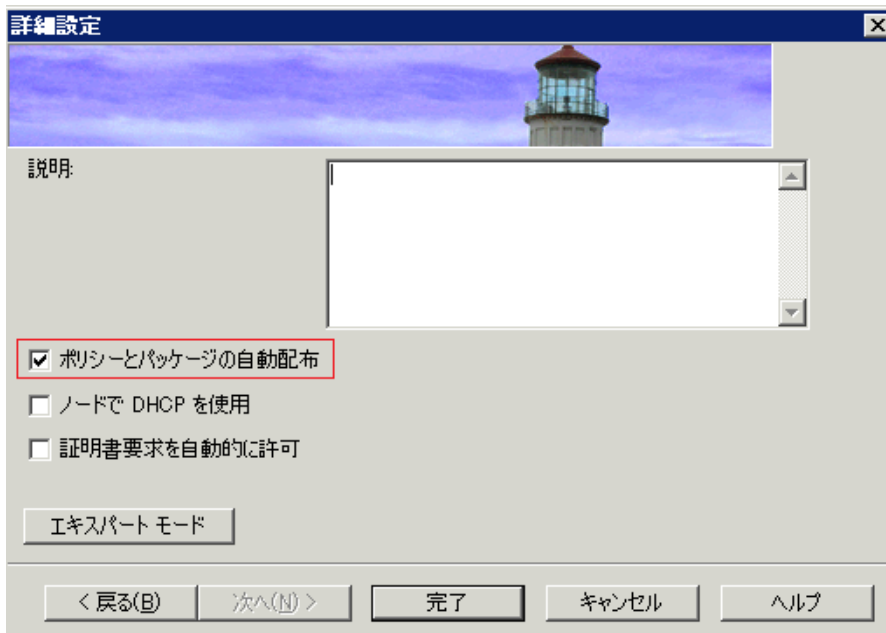
### HPOM for Windows - はじめに

HPOM for Windows にインストールされている Infrastructure SPIs を初めて使用するには、以下の手順を実行します。

#### 管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布

Infrastructure SPIs を HPOM for Windows 管理サーバーにインストールしたら、監視するノードを追加します。ノードの追加時には、以下の図に示すように、**[ポリシーとパッケージの自動配布]** オプションがデフォルトでオンになっています。

図 21 ポリシーとパッケージの自動配布



このオプションは、管理ノード上の以下のポリシーの自動配布を有効にします。

- SI-SystemDiscovery
- InfraSPI-Messages
- OPC\_OPCMON\_OVERRIDE\_THRESHOLD
- OPC\_PERL\_INCLUDE\_INSTR\_DIR

既存のノード (Infrastructure SPIs のインストール前に追加された) の場合、または管理ノードの追加中に **[ポリシーとパッケージの自動配布]** チェックボックスがオフにされた場合は、これらのポリシーを手動で配布します。

以下のポリシーを管理ノードに配布します。

ポリシー (順序は任意) にアクセスおよび配布するには、以下の手順を実行します。

- **[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [<言語>] → [Messages]** の順に選択して、InfraSPI-Messages ポリシーを配布します。
- **[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [AutoDiscovery]** の順に選択して、SI-SystemDiscovery ポリシーを配布します。
- **[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [Settings and Thresholds] → [Agent Settings]** の順に選択して、OPC OPCMON\_OVERRIDE\_THRESHOLD および OPC\_PERL\_INCLUDE\_INSTR\_DIR の各ポリシーを配布します。

以下のポリシーを管理サーバーに配布します。

*InfraSPI-ServerSetting* ポリシー: このポリシーにアクセスするには、**[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [Settings and Thresholds] → [Server Settings]** の順に選択します。

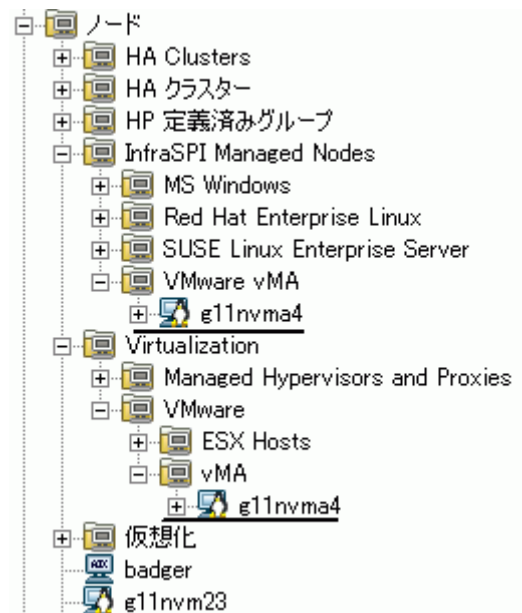
## 仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行

仮想化されたインフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、SI SPI 検出の実行です。

VMware vMA を管理ノードとして HPOM for Windows に追加した場合、SI SPI によって、vMA ノードに登録されている ESX/ESXi サーバーと vCenter サーバーが **[ノード]** フォルダに自動的に追加されます。検出された管理ノードは、コンソール ツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

- **[ノード] → [InfraSPI Managed Nodes] → [VMware vMA/ HyperV]**
- **[ノード] → [Virtualization] → [Managed Hypervisors and Proxies]**

図 22 コンソール ツリー内の VMware ESX/ESXi/vCenter 管理ノード



コンソール ツリーの [ノード] フォルダにノードが追加されると、SI SPI によって VI SPI 検出ポリシーが起動されます。

VI SPI 検出ポリシーは、HPOM 管理サーバーの XPL 設定 `infraspi.AutoAdd_Guests` が `true` に設定されている場合、ESX、ESXi、および vCenter の各サーバーでホストされているゲスト仮想マシンを自動的に登録ノードに追加します。デフォルトでは、この設定は `false` に設定されています。これは、検出時に多数の仮想マシンがまとめて追加され、パフォーマンスが低下することを防ぐためです。この値を `true` に設定して VI SPI 検出を再実行すると、仮想マシンの自動追加機能を有効にすることができます。自動アクションを実行するのに都合のよい時間を選択することもできます。



Hyper-V サーバー上でホストされているゲスト仮想マシンは、検出時または検出後に自動的に登録ノードに追加されることはありません。これは、WMI 内のゲスト仮想マシンの IP アドレスを使用できないことによります。ゲストは、SNMP/メッセージ許可/管理の各ノードとして手動で追加できます。

VI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。検出された仮想インフラストラクチャをグラフィカルに表示する VI SPI サービス マップを表示するには、**[サービス]** → **[Virtualization Infrastructure]** を選択します。

## Cluster Infrastructure での検出ポリシーの実行

Cluster Infrastructure の検出を開始する最初の手順は、SI SPI 検出の実行です。

クラスタ ノードを HPOM for Windows に追加した場合、SI SPI によって、クラスタ ノードとリソース グループが登録ノードに自動的に追加されます。クラスタ ノードは、コンソール ツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

- **[ノード] → [HA クラスタ] → [クラスタ化されたノード]**
- **[ノード] → [HA クラスタ] → <クラスタ名> → [ノード]**

リソース グループは、コンソール ツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

**[ノード] → [HA クラスタ] → <クラスタ名> → [リソース グループ]**

コンソール ツリーの [ノード] フォルダにノードが追加されると、SI SPI によって CI SPI 検出ポリシーが起動されます。

CI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。検出されたクラスタ インフラストラクチャをグラフィカルに表示する CI SPI サービス マップを表示するには、**[サービス]** → **[HA Cluster Infrastructure]** を選択します。

## Quick Start ポリシーの HPOM for Windows への配布

インフラストラクチャが検出され、サービス マップが HPOM for Windows 管理サーバーに設定されると、QuickStart ポリシーが自動的に管理ノードに配布されます (ポリシーの自動配布が有効な場合)。QuickStart ポリシーは、3 つの Infrastructure SPIs すべてで使用可能で、設定のカスタマイズにさほどの時間をかけずにすぐ使用できます。ポリシーの自動配布は、デフォルトで有効になっています。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前でも保存し、目的に応じたカスタム ポリシーを作成することもできます。

ディスク使用率ポリシーやディスク容量監視ポリシーなどの高度なポリシーは、特定のシナリオで使用されます。これらのポリシーは、必要に応じて手動で配布できます。

ポリシーの自動配布をオフにした場合、Infrastructure SPIs によって提供される 2つのポリシー グループのいずれかにアクセスすることで、QuickStart を手動で配布できます。グループ化は、監視対象要素、およびベンダーとオペレーティング システムに基づいています。監視対象要素に基づくグループ化では、複数のオペレーティング システムにわたってパフォーマンス、可用性、容量、ログ、およびセキュリティ要素を監視するポリシーにアクセスして配布できます。たとえば、インフラストラクチャでスケジュールされたジョブサービスの可用性を監視するには、以下の順に展開します。

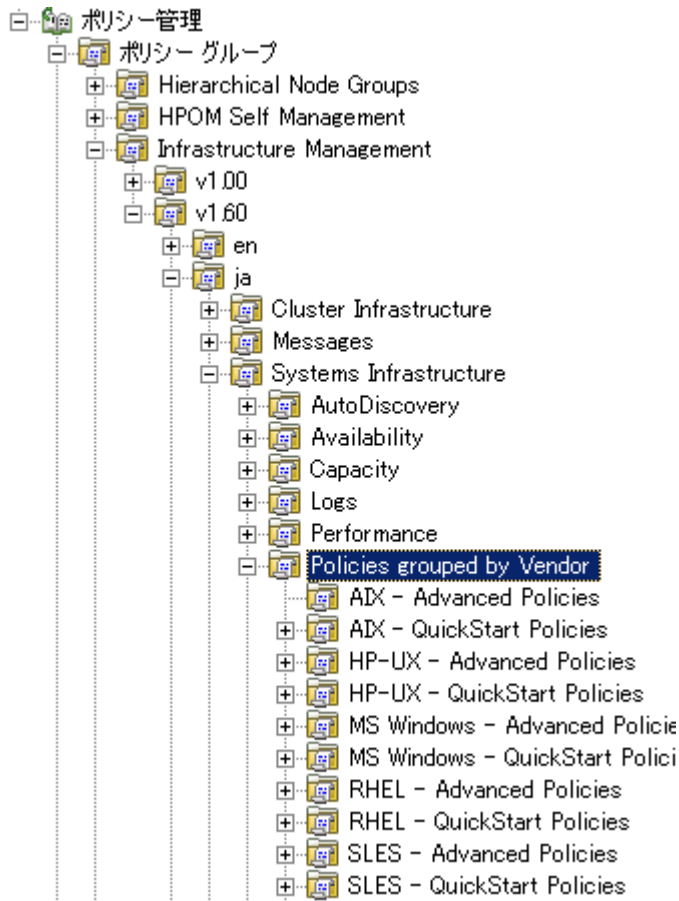
[Infrastructure Management] → [v1.60] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Availability] → [Scheduled Job Service]

ベンダー別にグループ化されたポリシーでは、1つの場所からご使用のオペレーティング システムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。たとえば、管理ノードに配布する SI-RHELCronProcessMonitor ポリシーにアクセスするには、以下の順に展開します。

[Infrastructure Management] → [v1.60] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Policies grouped by Vendor] → [RHEL - QuickStart Policies] → [SI-RHELCronProcessMonitor]

ベンダー別にグループ化されたポリシーには、QuickStart ポリシーと高度なポリシーの 2つのサブグループがあります。QuickStart グループには、最もよく使用されるポリシーが含まれています。ディスク使用率ポリシーやディスク容量監視ポリシーなどの高度なポリシーは、特定のシナリオで使用されます。以下の図に、ベンダー別にグループ化されたポリシーおよび QuickStart ポリシーと高度なポリシーのサブグループを示します。

図 23 ベンダー別にグループ化されたポリシー



ポリシーを配布するには、該当する QuickStart ポリシー グループを選択して右クリックします。[すべてのタスク] → [配布先ノード]の順に選択します。[ポリシーの配布先] ウィンドウが開きます。ポリシーを配布する管理ノードを選択し、[OK] をクリックします。



# HPOM for UNIX - はじめに

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) で Infrastructure SPIs を初めて使用するには、以下の手順を実行します。

## 管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布

- 1 監視するノードを管理サーバーに追加します。これらのノードは登録ノードに表示されます。
- 2 SISPI-Deployment というノード グループを作成します。
- 3 以下のポリシーをこのノード グループに割り当てます。
  - SI-SystemDiscovery
  - InfraSPI-Messages
  - OPC\_OPCCMON\_OVERRIDE\_THRESHOLD
  - OPC\_PERL\_INCLUDE\_INSTR\_DIR
- 4 管理ノードをこのノード グループに追加します。
- 5 割り当てられたポリシーを管理ノードに配布 (分配) します。

以下のポリシーを管理サーバーに配布します。

*InfraSPI-ServerSettings* ポリシーは管理サーバーに自動的に割り当てられます。ポリシーを管理サーバーに手動で配布します。ポリシーにアクセスするには、**[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [Settings and Thresholds] → [Server Settings]** の順に選択します。

## 仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行

仮想化されたインフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、SI SPI 検出の実行です。

SI SPI 検出によって、以下のように仮想化環境に関連するノード グループが作成され、管理ノードがそれぞれのグループに追加されます。

- ノードが vMA の場合、SI SPI 検出によって、vMA に登録されている vCenter サーバーと ESX/ESXi ホストが関連するノード グループに追加されます。この検出ポリシーは、vCenter ホストを **VISPI-vCenter** ノード グループに、ESX/ESXi ホストを **VISPIHosts-VMware** ノード グループに追加します。
- ノードが Hyper-V の場合、SI SPI 検出によって VISPIHosts-HyperV ノード グループに追加されます。

これらのノードにアクセスするには、**[All Objects] → [All Node Groups]** の順に選択します。

SI SPI 検出を実行したら、VI SPI 検出ポリシーを手動で **VISPI-Deployment** ノード グループに割り当ておよび配布します。

VI SPI 検出ポリシーは、HPOM 管理サーバーの XPL 設定 **infraspi.AutoAdd\_Guests** が **true** に設定されている場合、ESX、ESXi、および vCenter の各サーバーでホストされているゲスト仮想マシンを自動的に登録ノードに追加します。デフォルトでは、この設定は **false** に設定されています。これは、検出時に多数の仮想マシンがまとめて追加され、パフォーマンスが低下することを防ぐためです。この値を **true** に設定して VI SPI 検出を再実行すると、仮想マシンの自動追加機能を有効にすることができます。自動アクションを実行するのに都合のよい時間を選択することもできます。



Hyper-V サーバー上でホストされているゲスト仮想マシンは、検出時または検出後に自動的に登録ノードに追加されることはありません。これは、WMI 内のゲスト仮想マシンの IP アドレスを使用できないことによります。ゲストは、SNMP/メッセージ許可/管理の各ノードとして手動で追加できます。

VI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。サービス マップは、検出された仮想インフラストラクチャをグラフィカルに表示します。

## Cluster Infrastructure での検出ポリシーの実行

Cluster Infrastructure の検出を開始する最初の手順は、SI SPI 検出の実行です。

SI SPI 検出によって、クラスタ環境に関連するノード グループが作成され、クラスタ ノードとリソース グループが関連するノード グループに追加されます。

たとえば、ノードが HP-UX 上の MCSG クラスタである場合、SI SPI 検出によってそのノードは **CISPI-Deployment** および **CISPI-MCSG-HPUX** の各ノード グループに追加されます。リソース グループの場合は、**CISPI-RG** ノード グループに追加されます。

SI SPI 検出を実行したら、CI SPI 検出ポリシーを手動で **CISPI-Deployment** ノード グループに割り当ておよび配布します。

CI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。検出されたクラスタ インフラストラクチャをグラフィカルに表示する CI SPI サービス マップを表示できます。

## Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX への配布

インフラストラクチャが検出され、サービス マップが HPOM for UNIX 管理サーバーに設定されると、QuickStart ポリシーが自動的に管理ノードに割り当てられます。QuickStart ポリシーは、3 つの Infrastructure SPIs すべてで使用可能で、設定のカスタマイズにさほどの時間をかけずにすぐに使用できます。ポリシーの自動割り当ては、デフォルトで有効になっています。これらのポリシーを管理ノードに配布できます。

グループ化は、監視対象要素、およびオペレーティング システム/ベンダーに基づいています。監視対象要素に基づくグループ化では、複数のオペレーティング システムにわたってパフォーマンス、可用性、容量、ログ、およびセキュリティ要素を監視するポリシーにアクセスして配布できます。たとえば、インフラストラクチャでスケジュールされたジョブ サービスの可用性を監視するには、以下の順に選択します。

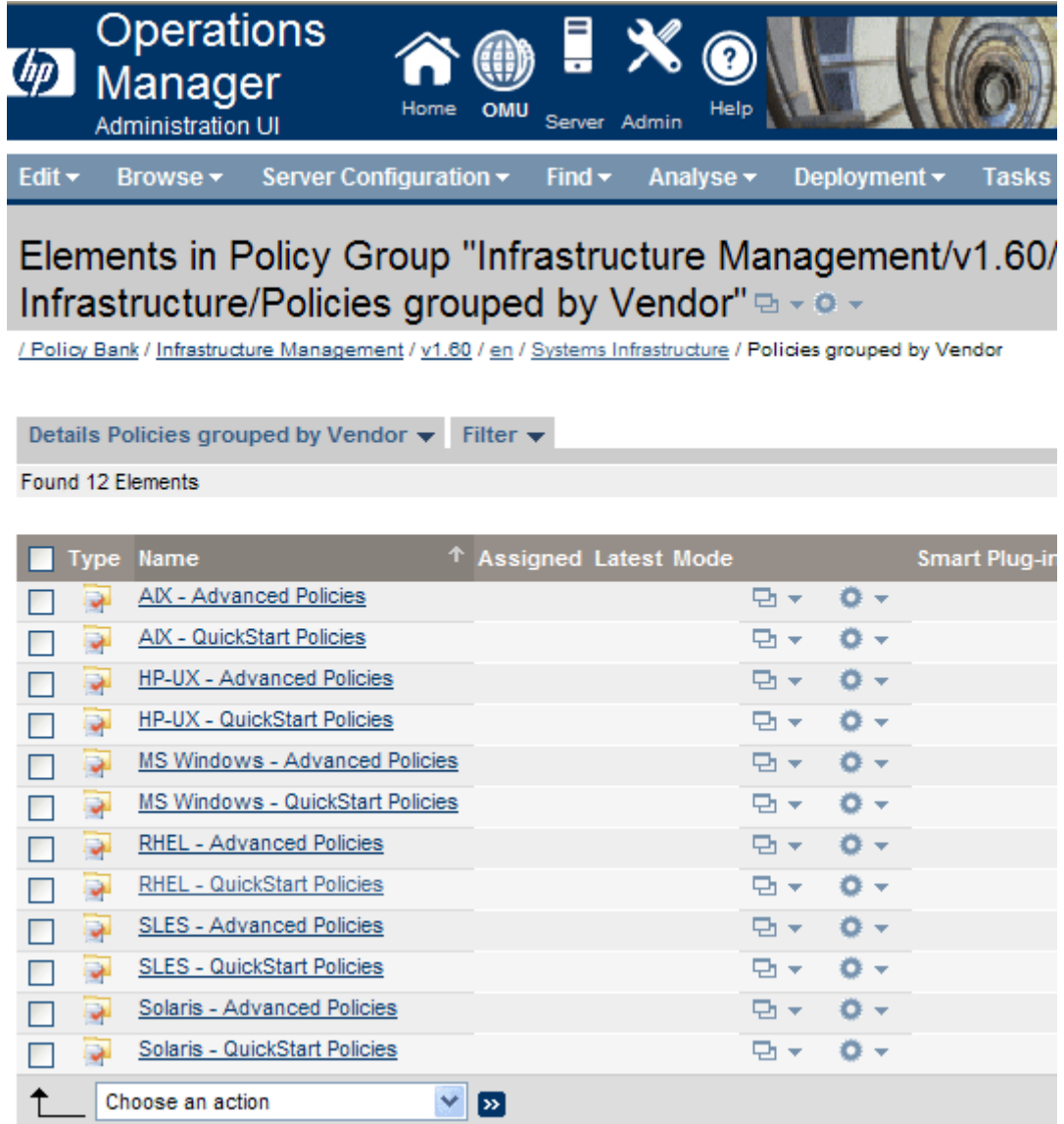
**[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [ja] → [Systems Infrastructure] → [Availability] → [Scheduled Job Service]**

オペレーティング システムとベンダー別にグループ化されたポリシーでは、1 つの場所からご使用のオペレーティング システムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。たとえば、管理ノードに配布する SI-CPUSpikeCheck ポリシーにアクセスするには、以下の順に選択します。

**[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [v1.60] → [ja] → [Systems Infrastructure] → [Policies grouped by Vendor] → [RHEL - QuickStart Policies]**

オペレーティング システム別にグループ化されたポリシーには、QuickStart ポリシーと高度なポリシーの 2 つのサブグループがあります。QuickStart グループには、最もよく使用されるポリシーが含まれています。ディスク使用率ポリシーやディスク容量監視ポリシーなどの高度なポリシーは、特定のシナリオで使用されます。以下の図に、ベンダー別にグループ化されたポリシーおよび QuickStart ポリシーと高度なポリシーのサブグループを示します。

図 24 ベンダー別にグループ化されたポリシー



## レポートとグラフの表示

Infrastructure SPIs によって収集されたデータからレポートとグラフを作成して表示するには、HP Reporter と HP Performance Manager をそれぞれ HPOM と連動して使用する必要があります。Infrastructure SPIs は、レポート用とグラフ用のデータを収集してデータストア内に格納します。データストアとしては、CODA (HP Operations Agent のデータストアで、組み込みパフォーマンスコンポーネントとも呼ばれる) または HP Performance Agent を指定できます。

VI SPI のレポートとグラフでは、HP Performance Agent が既に管理ノードにインストールされている必要があります。

HPOM for HP-UX、HPOM for Linux、または HPOM for Solaris でグラフを表示するには、最初に HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーに統合する必要があります。以下の項では、統合の手順について説明します。

## HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、または Solaris) サーバーを HP Performance Manager と統合するには、以下の手順を実行します。

- HP Performance Manager が HPOM サーバーにインストールされている場合、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh
```

```
install_OVPM.sh <ノード名>:<ポート>
```

例: `install_OVPM.sh test.ovtest.com:8081`

- HP Performance Manager が HPOM サーバーに接続しているリモート システムにインストールされている場合は、以下の手順を実行します。

a グラフ テンプレートを HP Performance Manager がインストールされているリモート システムから HPOM サーバーにコピーします。グラフのタイプとシステム上の場所を確認するには、『*HP Performance Manager 管理者ガイド*』を参照してください。

b HPOM サーバー上で以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh
```

```
install_OVPM.sh <ノード名>:<ポート>
```

例: `install_OVPM.sh test.ovtest.com:8081`

上記の手順によって、HPOM オペレータ GUI 内のイベントからグラフを起動する際に使用される HP Performance Manager のホスト システム設定が設定されます。

## レポート用のデータ収集

VI SPI の場合、レポート用のデータ収集はポリシーの配布に依存しません。データは、管理ノードに配布された HP Performance Agent によって収集されます。

SI SPI と CI SPI 用に提供されるレポートは、ポリシーに依存します。以下の表に、レポート、および対応するレポートのデータを収集するために管理ノードに配布する必要があるポリシーを示します。

表 8 SI SPI および CI SPI に関するレポートと対応するポリシー

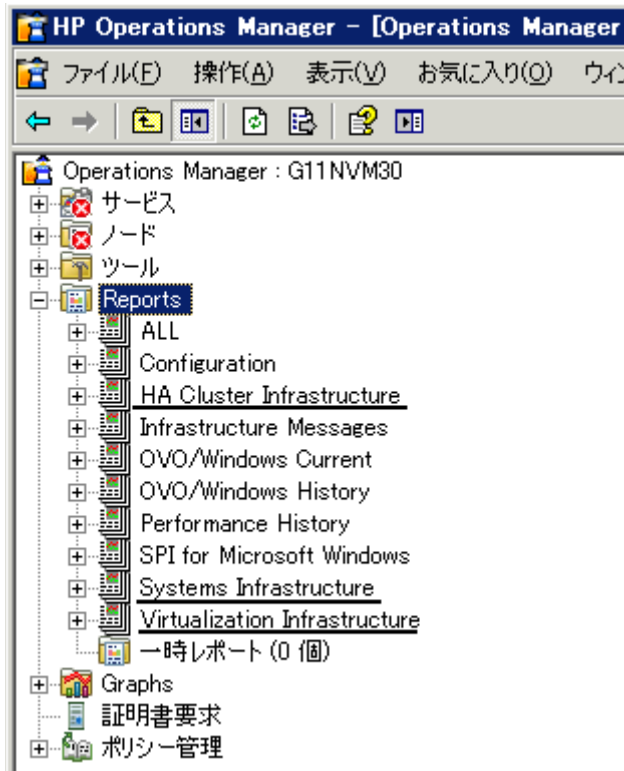
レポート	ポリシー	管理ノードのプラットフォーム	SPI
前回ログイン/未使用ログイン	SI-MSWindowsLastLogonsCollector_ja_JP	Windows	Systems Infrastructure
前回ログイン/未使用ログイン	SI-LinuxLastLogonsCollector_ja_JP	Linux	Systems Infrastructure
失敗したログイン	SI-MSWindowsFailedLoginsCollector_ja_JP	Windows	Systems Infrastructure
失敗したログイン	SI-UNIXFailedLoginsCollect_ja_JP	Linux、HP-UX、AIX、Solaris	Systems Infrastructure

表 8 SI SPI および CI SPI に関するレポートと対応するポリシー

レポート	ポリシー	管理ノードのプラットフォーム	SPI
クラスタ設定	CI-ClusterDataCollector_ja_JP	Sun Cluster、 VCS Clusters、 Service Guard、 RHEL Cluster	Cluster Infrastructure
クラスタ アップタイム	CI-ClusterDataCollector_ja_JP	Sun Cluster、 VCS Clusters、 Service Guard、 RHEL Cluster	Cluster Infrastructure
クラスタ システムの可用性	CI-ClusterDataCollector_ja_JP	Sun Cluster、 VCS Clusters、 Service Guard、 RHEL Cluster	Cluster Infrastructure

HPOM for Windows から Infrastructure SPIs のレポートを表示するには、コンソール ツリーで **[Reports]** → **[<Systems/ HA Cluster/ Virtualization> Infrastructure]** の順に展開します。レポートを表示するには、HPOM コンソールで必要なレポートを選択して右クリックし、続いて **[レポートの表示]** を選択します。

図 25 HPOM for Windows での Infrastructure SPIs 用のレポート



HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システム向けの HPOM から Infrastructure SPIs 用のレポートを表示するには、HP Reporter を管理サーバーに接続されている別の (スタンドアロン) システムにインストールします。HPOM for Windows の場合、HP Reporter をスタンドアロン システムにインストールすることもできます。HP Reporter スタンドアロン システム上でレポートを表示するには、**[Reporter Administrator]** → **[Reports]** → **[<Systems/ HA Cluster/ Virtualization> Infrastructure]** の順に展開します。

Operations Manager : BTOVM346\Reports\System Infrastructure

- Operations Manager : BTOVM346
  - Services
  - Nodes
  - Tools
  - Reports
    - ALL
    - Configuration
    - HA Cluster Infrastructure
      - Cluster Configuration
      - Cluster System Availability
      - Cluster Uptime
    - Infrastructure Messages
    - Performance History
    - Systems Infrastructure**
      - System Availability
      - System Failed Login
      - System Last Login
      - Top CPU Process
      - Top Memory Process
    - Virtualization Infrastructure
      - Hyper-V Configuration
      - Hyper-V CPUUtil
      - vMA Configuration
      - vMA CPUUtil
      - vMA MEMUtil
      - vMA ReadyUtil
      - vMA TOPCPU
      - vMA TOPDisk
      - vMA TopMem
      - vMAAvailability
    - Temporary Reports (0 Reports)
  - Graphs
  - Certificate requests
  - Policy management

Name
System Availability
System Failed Login
System Last Login
Top CPU Process
Top Memory Process

## 5 Infrastructure SPIs の削除

この章では、Infrastructure SPIs の削除に必要なタスクについて説明します。以下の項に説明する手順を使用すると、HPOM for Windows、HP-UX、Linux、または Solaris 管理サーバーにインストールされている Infrastructure SPIs を削除できます。



アンインストール手順では、カスタマイズされたポリシーを含むすべてのバージョンの SPI ポリシーが管理サーバーから削除されます。

**回避策:** 何らかのポリシーを保持する場合、ポリシーのコピーを別の名前を使用して作成します。

### ディスク領域の要件

Infrastructure SPIs を削除するには、管理サーバー上でほぼ 240 MB の合計ディスク領域および一時フォルダとして 35 MB の領域が使用可能なことを確認してください。

## Windows サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール

以下のタスクを実行して、Infrastructure SPIs を Windows 管理サーバーから削除します。

### タスク 1: 管理ノードからのポリシーの削除

以下のタスクを実行して、管理ノードから Infrastructure SPIs のポリシーを削除します。

- 1 HPOM コンソール ツリーで、**[Operations Manager]** → **[ポリシー管理]** → **[ポリシー グループ]** → **[Infrastructure Management]** の順にフォルダを展開します。
- 2 **[Infrastructure Management]** を右クリックし、**[すべてのタスク]** → **[アンインストールする対象ノード ...]** の順に選択します。
- 3 [ポリシーをアンインストールする対象ノード...] ダイアログボックスで、**[ノード]** を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。

すべてのポリシーがすべてのノードからアンインストールされるまで待機する必要があります。ポリシーのアンインストールのステータスは、**[Deployment jobs]** ウィンドウで参照できます。

### タスク 2: 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の削除

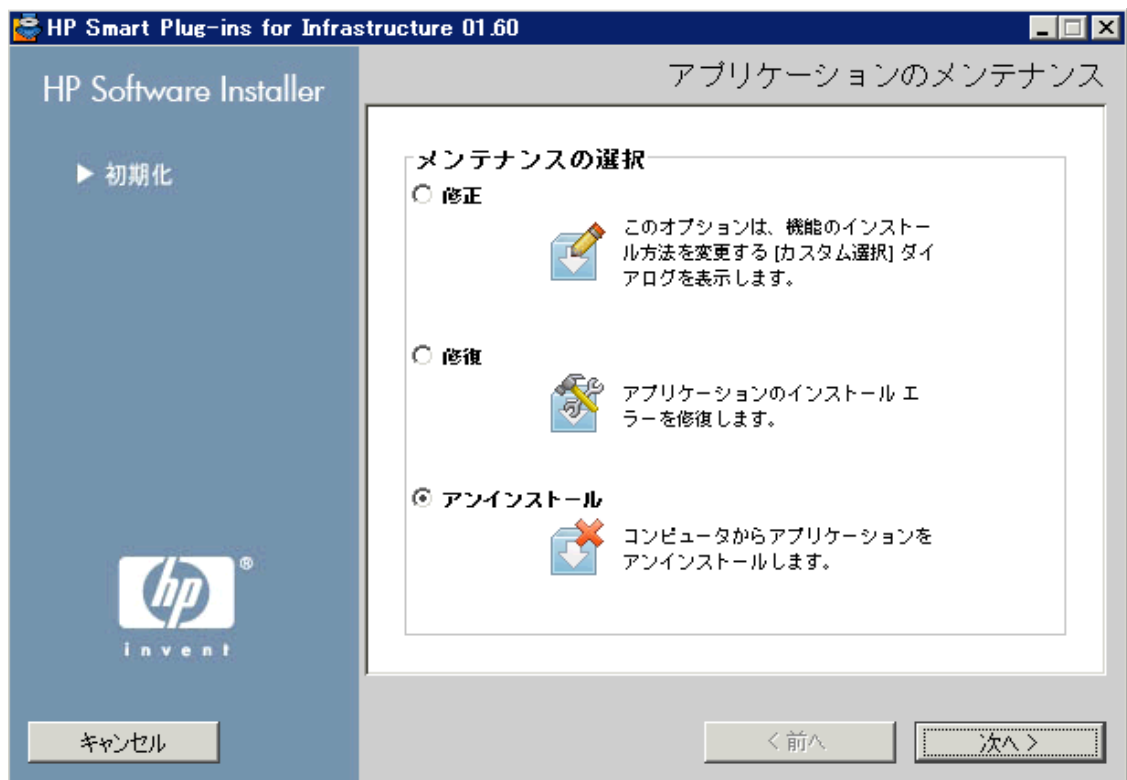
以下のいずれかの方法で、Infrastructure SPIs を HPOM for Windows 管理サーバーから削除できます。

- Windows サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール
- Windows サーバーからの個別の Infrastructure SPIs の有人アンインストール
- Windows サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール

## Windows サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール

アンインストール ウィザードを使用して Infrastructure SPIs をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 コントロール パネルから Infrastructure SPIs のアンインストール ウィザードを起動するには、以下の手順を実行します。
  - a [スタート] → [設定] → [コントロール パネル] の順に移動します。
  - b [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
  - c [HP Smart Plug-ins for Infrastructure] を選択し、[変更と削除] をクリックしてアンインストールします。または、HP Smart Plug-ins for Infrastructure DVD またはインストーラのディレクトリから Infrastructure SPIs のアンインストール ウィザードを起動できます。
  - a Infrastructure SPIs インストーラ パッケージを含む一時ディレクトリを開きます。
  - b **HPInfraSPI\_setup.exe** をクリックして、アンインストール ウィザードを起動します。
- 2 アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、[続行] をクリックします。  
[アプリケーションのメンテナンス] ページが開きます。



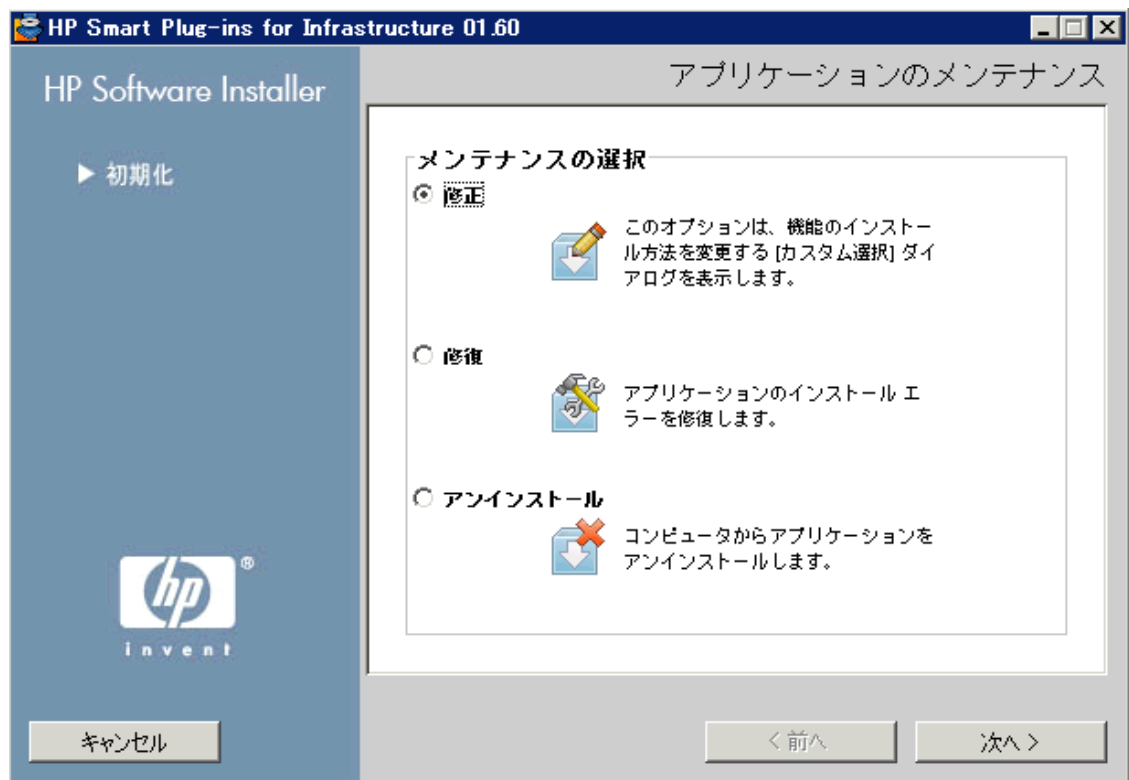
- 3 [アンインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。  
[プレ アンインストールの概要] ページが表示されます。
- 4 [Uninstall (アンインストール)] をクリックします。ウィザードによって Infrastructure SPIs のアンインストールが開始されます。
- 5 [Done (完了)] をクリックして、アンインストールを完了します。



## Windows サーバーからの個別の Infrastructure SPIs の有人アンインストール

アンインストール ウィザードを使用して 3 つの Infrastructure SPIs のいずれかをアンインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 コントロール パネルから HP Infrastructure SPIs のアンインストール ウィザードを起動するには、以下の手順を実行します。
  - a **[スタート]** → **[設定]** → **[コントロール パネル]** の順に移動します。
  - b **[プログラムの追加と削除]** をダブルクリックします。
  - c **[HP Smart Plug-ins for Infrastructure]** を選択し、**[変更と削除]** をクリックしてアンインストールします。または、HP Smart Plug-ins for Infrastructure DVD またはインストーラのディレクトリから Infrastructure SPIs のアンインストール ウィザードを起動できます。
  - a Infrastructure SPIs インストーラ パッケージを含む一時ディレクトリを開きます。
  - b **HPInfraSPI\_setup.exe** をクリックして、アンインストール ウィザードを起動します。
- 2 アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、**[続行]** をクリックします。  
[アプリケーションのメンテナンス] ページが開きます。



- 3 **[修正]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。  
[プレインストールの概要] ページが表示されます。
- 4 アンインストールする SPI を除き、継続するすべてのオプションを選択します。
- 5 **[修正]** をクリックします。ウィザードによって Infrastructure SPIs のアンインストールが開始されます。

この段階で、選択された SPIs、Reporter パッケージ、およびグラフ パッケージは既にインストールされているため、無視されます。選択されていない SPI がアンインストールされます。

- 6 **[Done]** をクリックして、個々の SPI のアンインストールを完了します。

## Windows サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール

コマンド プロンプトから Infrastructure SPIs をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 Windows コマンド プロンプトを開き、ディレクトリを C:\Program Files\HP\HP BTO Software\Uninstall\HPInfraSPI に変更します。
- 2 以下のコマンドを実行します。

```
setup.exe -DUNINSTALL -i silent
```

## UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール

このプロセスでは、Infrastructure SPIs のポリシーを含む、Infrastructure SPIs のインストール内容が HPOM 管理サーバーから完全に削除されます。カスタマイズ (Infrastructure SPIs のデフォルト ポリシーのコピー) されているポリシーが他の HPOM ポリシー グループに属していても同様に削除されます。以下の手順に従って適切に削除してください。

### タスク 1: 管理ノードからのポリシーの削除

以下のタスクを実行して、管理ノードから Infrastructure SPIs のポリシーを削除します。

- 1 管理者として HPOM にログオンします。HPOM 管理者 UI が表示されます。
- 2 **[Browse]** ドロップダウン メニューから **[All Policy Assignments]** を選択します。**[All Policy Assignments]** ウィンドウが開きます。
- 3 **[All Policy Assignments]** ウィンドウで、ポリシーに対する **[Assignment Mode]** チェック ボックスをオンにして、ノードまたはノード グループから削除するポリシーまたはポリシー グループを選択します。
- 4 **[Choose an Action]** ドロップダウン ボックスから **[Delete Assignment...]** を選択して、**[submit]** をクリックします。操作を元に戻すことができないことを示す、メッセージ ウィンドウが表示されます。
- 5 **[OK]** をクリックします。
- 6 ノードに対して選択されたポリシー割り当てが削除されます。
- 7 HPOM 管理 UI から、登録オブジェクト カテゴリ下の **[Node Bank]** をクリックします。**[Node Bank]** ウィンドウが開きます。
- 8 **[Node Bank]** ウィンドウで、ポリシーを削除するノードまたはノード グループを選択します。
- 9 **[Choose an Action]** ドロップダウン ボックスから **[Deassign from this Group...]** を選択して、**[submit]** をクリックします。
- 10 選択したノードからポリシーが削除されます。

### タスク 2: 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の削除

以下のいずれかの方法で、Infrastructure SPIs を HPOM for UNIX 管理サーバーから削除できます。

- UNIX サーバーからの **Infrastructure SPIs** の有人アンインストール
- コマンド行インタフェースを使用した UNIX サーバーからの **Infrastructure SPIs** の有人アンインストール

## UNIX サーバーからの **Infrastructure SPIs** の有人アンインストール

グラフィカル インタフェース (X11 インタフェース) を使用すると、**Infrastructure SPIs** の有人アンインストールを実行できます。有人モードで **Infrastructure SPIs** を削除するには、以下の手順を実行します。

- 1 root としてログオンし、ターミナル ウィンドウを開きます。
- 2 ターミナル ウィンドウで、以下のように入力して、DISPLAY 環境変数が使用しているワークステーションに正しく設定されていることを確認します。

```
echo $DISPLAY
```

DISPLAY 環境変数が正しく設定されていない場合、正しく設定してコンソールの GUI が正しく表示されるようにします。

```
export DISPLAY=<Infrastructure SPIs のインストール元のローカル システムの IP アドレス  
またはホスト名>:0.0
```

- 3 ディレクトリを /opt/OV/Uninstall/HPInfraSPI に変更します。
- 4 システム上で X Window (または X11) System クライアントを起動します。X Window System クライアントは、インストール用のグラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) を表示するために必要です。たとえば、Reflection X を使用できます。
- 5 以下のコマンドを実行します。
 

```
./setup.bin
```
- 6 **[Uninstall]** を選択します。ウィザードによって **Infrastructure SPIs** のアンインストールが開始されます。
- 7 画面の指示に従い、**[Next]** と **[Uninstall]** の各ボタンを使用してアンインストールプロセスを進めます。
- 8 **[Done]** をクリックして、アンインストールを完了します。

## コマンド行インタフェースを使用した UNIX サーバーからの **Infrastructure SPIs** の有人アンインストール

コマンド プロンプトを使用すると、**Infrastructure SPIs** の無人アンインストールを実行できます。無人モードで **Infrastructure SPIs** を削除するには、以下の手順を実行します。

- 1 ディレクトリを /opt/OV/Uninstall/HPInfraSPI に変更します。
- 2 以下のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -i console
```

以下のメッセージが表示されます。続行するには、<ENTER> を押してください。

- 3 **[Enter]** を押して続行します。
 

変更、修復、またはアンインストールのオプションが表示されます。
- 4 「3」と入力して、アンインストールを選択します。
 

以下のメッセージが表示されます。続行するには、<ENTER> を押してください。

5 **[Enter]** を押して続行します。

アンインストールが完了すると、アンインストールが正常に完了したことを示すメッセージを受信します。

## UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール

コマンド プロンプトから Infrastructure SPIs の無人アンインストールを実行するには、以下のコマンドを実行します。

```
/opt/OV/Uninstall/HPInfraSPI/setup.bin -i silent
```

## クラスタ サーバー環境からの Infrastructure SPIs の削除

クラスタ環境から Infrastructure SPIs を削除するには、以下の手順を実行します。

必要に応じて、「Windows サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール」または「UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール」の項の手順を実行します。

1 台の管理サーバーでのアンインストールが完了したら、クラスタ内の次の管理サーバーに進みます (クラスタ内の任意の管理サーバーを選択して、アンインストールを開始できます)。

アンインストールが完了すると、通知されます。

## アンインストール結果

Infrastructure SPIs をアンインストールしても、以下の項目は削除されません。

- 自動追加機能を使用して登録ノードに自動的に追加されたノードは、削除されません。これはアラートメッセージが失われる可能性を防止するためです。必要に応じて割り当てられたイベントのバックアップを作成し、手動でノードを削除できます。
- ノード グループは、Infrastructure SPIs が HPOM for Unix (HP-UX、Linux、および Solaris) 上でアンインストールされた後も、存在し続けます。これは、ノード グループに割り当てられた他の SPIs に関連するポリシーが影響を受けないようにするためです。
- *Virtualization Infrastructure* や *HA Cluster Infrastructure* などの最上位レベルのサービス要素は削除されません。ただし、関連する SPI モデルは削除されます。サービス マップは、関連する検出ポリシーがすべてのノードから配布解除された後にクリーンアップされます。

## 6 付録: Infrastructure SPIs バージョン 1.60 での変更点

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 では、機能強化と不具合修正が行われています。以下に、これらの更新について詳細に説明します。

### HPOM for Solaris および HP OMi のサポート

Infrastructure SPIs バージョン 1.00 では、HP Operations Manager for Windows、HP-UX、および Linux がサポートされていました。現在のリリースでは、HP Operations Manager for Solaris および Operations Manager i (OMi) までサポートが拡張されています。

### 管理ノード上での AIX、HP-UX、および Solaris のサポート

Infrastructure SPIs バージョン 1.00 では、Windows と Linux の管理ノードがサポートされていました。現在の Infrastructure SPIs バージョン 1.60 では、AIX、HP-UX、および Solaris の管理ノードまでサポートが拡張されています。

### 機能強化された検出

検出ポリシーは、検出の失敗時に該当するメッセージを HPOM コンソールに送信するように機能強化されました。これらのメッセージには、問題点が指摘されていて、問題を解決するための指示文があります。

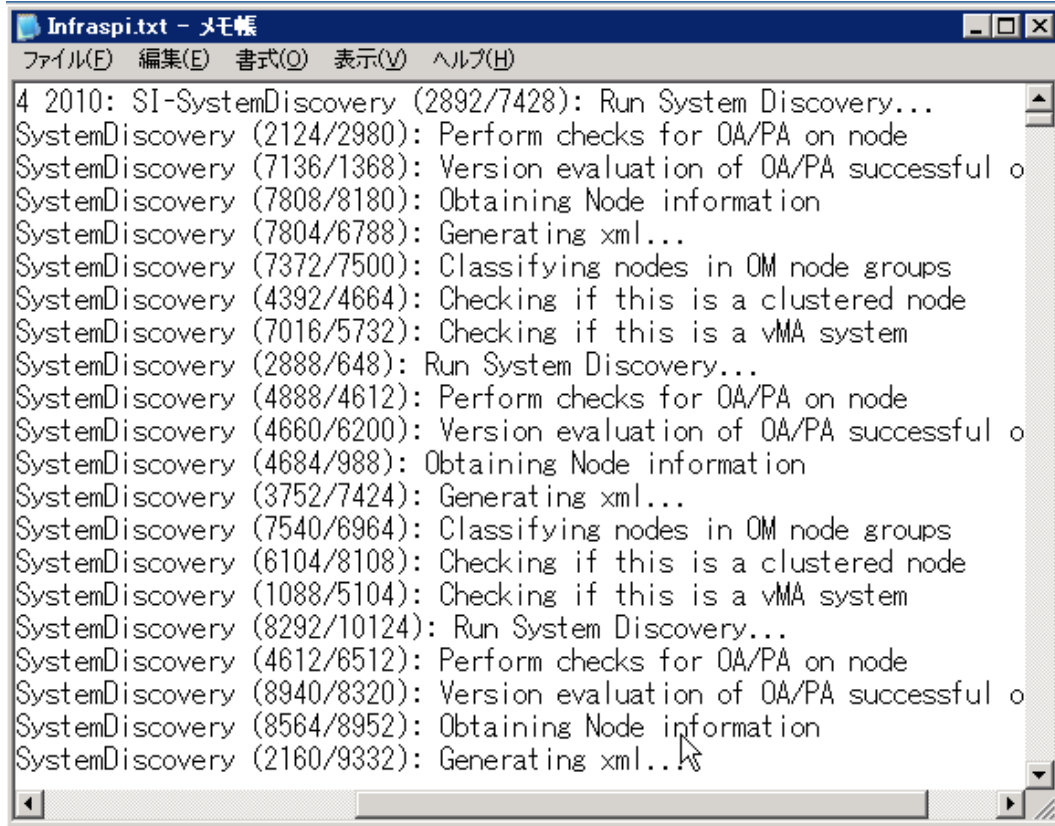
### 強化されたトレース機能

インフラストラクチャの容量およびパフォーマンスを監視している Infrastructure SPI ポリシーには、デバッグとトレース ファイル用に 2 つの異なるパラメータがありました。このリリースでは、これら 2 つのパラメータが **Debug** という 1 つのパラメータに統合されました。Debug パラメータには、以下のように 3 つの値を割り当てることができます。

- Debug=0、トレース メッセージは送信されません。
- Debug=1、トレース メッセージがコンソールに送信されます。
- Debug=2、トレース メッセージは管理ノード上のトレース ファイルにログ記録されます。管理ノード上のトレース ファイルの場所は、<OV\_DATA\_DIR>\<log> です。

以下の図に、Windows システムでのトレース ファイルのテキストのサンプルを示します。

図1 トレース ファイルのテキストのサンプル



## 機能強化されたポリシーのグループ化

Infrastructure SPIs バージョン 1.60 では、ベンダーに基づいた既存のポリシー グループに加えて、新しいポリシー グループ化構造が導入されました。新しいグループは、System Infrastructure の場合、Redhat や SuSE などのベンダー、Cluster Infrastructure の場合は、Veritas や HP ServiceGuard などのベンダーに基づきます。これで、関連するポリシーをすばやく簡単に配布できるようになります。

バージョン 1.60 以降、HPOM コンソール上の *SPI for infrastructure* というポリシー グループ名は、*Infrastructure Management* に変更されます。現在のバージョンの Infrastructure SPIs をインストールすると、そのポリシー グループは、HPOM コンソール上の現在のバージョン番号の下に表示されます。たとえば、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 の場合、ポリシー グループは v1.60 として表示されます。以前のバージョンの Infrastructure SPIs ポリシーがサーバーに配布されている場合、以前のポリシー グループは、v1.0 および 1.60 の両方のグループの下に表示されます。これで、異なる SPI バージョンを区別し、以前のバージョンでのポリシーの変更を維持できるようになります。

## 強化されたノード グループのレイアウト

ノード グループのレイアウトがより意味のあるノード グループ名を表すように強化され、グループが再編成され、ナビゲーションが簡単になりました。

現在のリリースの Infrastructure SPI には、ノード グループに対する以下の変更が含まれています。

**前提条件:** 検出の実行前に InfraSPI-Messages ポリシーを OML/U/S に配布すること。

アップグレードプロセスでは、以前のバージョンによって作成された古いノードグループは削除されません。検出を再度実行する必要があり、新しいノードグループが作成されます。古いノードグループに対して行ったすべての割り当ては、新しいノードグループには適用されないため、手動で実行する必要があります。

OM Java GUI には、古い InfraSPI 1.0 ノードグループをすべて削除するための別個のツール、[System Infrastructure Cleanup 1.0 Node Groups (System Infrastructure 1.0 ノードグループのクリーンアップ)] が用意されています。

以下の表に、このバージョンで行われたノードグループの変更を示します。

**表 1 ノードグループのレイアウトの変更**

以前のノードグループ	新しいノードグループ
<b>管理ノード:</b>	
InfraSPI 管理ノード - Red Hat Enterprise Linux	SISPI-RHEL
InfraSPI 管理ノード - Suse Enterprise Linux	SISPI-SLES
InfraSPI 管理ノード - Sun OS	SISPI-SunSolaris
InfraSPI 管理ノード - IBM AIX	SISPI-IBM AIX
InfraSPI 管理ノード - HP-UX	SISPI-HPUX
InfraSPI 管理ノード - MS Windows	SISPI-MS Windows
InfraSPI 管理ノード - VMware vMA 仮想化 - VMware - vMA	SISPI-vMA
<b>クラスター:</b>	
HA クラスター - クラスター化されたノード	CISPI-Deployment
HA クラスター - MCSG クラスター - <クラスター名> - ノード	CISPI-MCSG-HPUX CISPI-MCSG-RHEL CISPI-MCSG-SLES
HA クラスター - HACMP クラスター - <クラスター名> - ノード	CISPI-HACMP
HA クラスター - RHAS クラスター - <クラスター名> - ノード	CISPI-RHACluster
HA クラスター - VCS クラスター - <クラスター名> - ノード	CISPI-VCS-RHEL CISPI-VCS-SLES CISPI-VCS-HPUX CISPI-VCS-SunSolaris CISPI-VCS-IBM AIX CISPI-VCS-MS Windows
HA クラスター - MSCS クラスター - <クラスター名> - ノード	CISPI-MSCluster
HA クラスター - SC クラスター - <クラスター名> - ノード	CISPI-SunCluster
HA クラスター - <クラスタータイプ> - <クラスター名> - リソースグループ	CISPI-RG

表1 ノードグループのレイアウトの変更

以前のノードグループ	新しいノードグループ
仮想化:	
仮想化 - VMware - ESX ホスト 仮想化 - VMware - ESXi ホスト	VISPIHosts-VMware
仮想化 - VMware - vCenter ホスト	VISPI-vCenter
仮想化 - VMware - VMware ゲスト	VISPIGuests-VMware
仮想化 - Microsoft - Hyper-V ホスト	VISPIHosts-HyperV
仮想化 - Microsoft - Hyper-V ゲスト	VISPIGuests-HyperV
仮想化 - 管理対象ハイパーバイザーとプロキシ	VISPI-Deployment

## 新規ポリシーと変更されたポリシー

現在のリリースの新規ポリシーと更新されたポリシーのリストは、以下のとおりです。

表2 Infrastructure SPIs 1.60 のポリシーの変更

SPI	ポリシー	新規/変更済み
SI SPI	SI-AIXCronProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXDHCPPProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXInetdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXLpdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXNamedProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXNfsServerProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXPortmapProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXQdaemonProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXSendmailProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXSyslogProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-AIXWebserverProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-GlobalCPUUtilization-AT_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXBootpdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXCronProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXInetdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXLpschedProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXNamedProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXNfsServerProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXSendmailProcessMonitor_ja_JP	新規



表 2 Infrastructure SPIs 1.60 のポリシーの変更

SPI	ポリシー	新規/変更済み
SI SPI	SI-HPUXSshdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXSyslogProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-HPUXWebserverProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-LinuxDHCPPProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-LinuxNamedProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-LinuxWebserverProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsEventLogRoleMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsFirewallRoleMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsNonPagedPoolUtilization-AT_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsPagedPoolUtilization-AT_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsPerfMonCollector_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsRpcRoleMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsSnmpprocessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-MSWindowsTaskSchedulerRoleMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-OpenSshdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-PerDiskAvgServiceTime-AT_ja_JP	新規
SI SPI	SI-RunQueueLengthMonitor-AT_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisCronProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisDHCPPProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisInetdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisLpdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisNamedProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisNfsProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisSendmailProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisSshdProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisSyslogProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-SunSolarisWebserverProcessMonitor_ja_JP	新規
SI SPI	SI-UnixSnmppdProcessMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-SunClusterNetworkLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-SunClusterNodeLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-SunClusterProcessMonitor_ja_JP	新規

表 2 Infrastructure SPIs 1.60 のポリシーの変更

SPI	ポリシー	新規/変更済み
CI SPI	CI-SunClusterResourceLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-VCSUnixNetworkLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-VCSUnixNodeLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-VCSUnixProcessMonitor_ja_JP	Renamed from CI-LinuxVCS_Process Monitor
CI SPI	CI-VCSUnixResourceLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-VCSWindowsNetworkLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-VCSWindowsNodeLogMonitor_ja_JP	新規
CI SPI	CI-VCSWindowsProcessMonitor_ja_JP	Renamed from CI-MSWindowsVCS_Process Monitor
CI SPI	CI-VCSWindowsResourceLogMonitor_ja_JP	新規

Virtualization Infrastructure SPI では、ポリシーの追加や変更はありません。

## メッセージグループの変更

アップグレードによって、Infrastructure SPIs バージョン 1.60 のメッセージ用に **OS** と **HA** という新しいメッセージグループが作成されますが、前のメッセージグループの **System** と **Clusters** は保持されます。新しいメッセージグループが作成されても、現在のバージョンと同様に、システムに既に存在している古いメッセージグループは削除されません。

## We appreciate your feedback!

If an email client is configured on this system, by default an email window opens when you click on the bookmark “Comments”.

In case you do not have the email client configured, copy the information below to a web mail client, and send this email to **docfeedback@hp.com**

**Product name:**

**Document title:**

**Version number:**

**Feedback:**

